

**EPSON**



Google TV

取扱説明書

## Home Projector

LIFESTUDIO FLEX Plus **EF-72**

LIFESTUDIO FLEX **EF-71**

LIFESTUDIO POP Plus **EF-62 Series**

LIFESTUDIO POP **EF-61 Series**

マニュアル中の表示の意味	5	プロジェクターを設定する	31
マニュアルの使い方と情報の探し方	7	ホーム画面	31
キーワードで検索する	7	Epson Projector Updateについて	33
しおりから直接ジャンプする	7	Epson Projector Updateをインストールする	33
必要なページだけ印刷する	7	プロジェクターの基本機能を使用する	34
ドキュメント類の最新バージョンを入手する	8	プロジェクターの電源を入れる	35
プロジェクターを使用する前に	9	ACアダプターを安全にお使いいただくために	36
プロジェクターの各部名称と働き	10	USB-C端子を使ってプロジェクターの電源を入れる (EF-72)	37
プロジェクターの各部名称 - 前面/側面	10	プロジェクターの電源を切る (サスペンド状態)	39
プロジェクターの各部名称 - 背面/側面	11	プロジェクターの電源を切る (ディープスタンバイ状態)	39
プロジェクターの各部名称 - 底面	13	設置モードを選択する	40
プロジェクターの各部名称 - リモコン	16	メニューから設置モードを変更する	40
プロジェクターを準備する	18	映像の高さを調整する (EF-62/EF-61)	41
プロジェクターの設置	19	映像の位置を調整する (EF-72/EF-71)	42
プロジェクターの設置・取り付け	21	映像の形状を補正する	44
設置に関するご注意	22	映像のゆがみとピントを自動的に補正する	44
投写距離	22	映像のサイズと位置を調整する	45
プロジェクターを三脚やプロジェクタースタンドに取り付ける (床置き・天吊り) (EF-62/EF-61)	22	フレームフィット機能で映像の形状を補正する	45
セーフティーワイヤーを取り付ける (EF-72/EF-71)	24	Quick Cornerを使用して映像の形状を補正する	46
プロジェクターを接続する	25	ピントを調整する	48
HDMIケーブルでビデオ機器と接続する	25	投写映像を切り替える	49
HDMIケーブルでコンピューターと接続する	25	映像のアスペクト比を設定する	50
USB機器を接続する	26	映像のアスペクト比を切り替える	50
ヘッドフォンを接続する	27	アスペクトモードの種類	50
eARC/ARC対応AVアンプを接続する	27	映像を最適化する (カラーモード)	51
リモコンに電池を取り付ける	29	カラーモードを変更する	51
リモコンを操作する	29	カラーモードの種類	51

映像を最適化する（詳細設定） .....	52
映像の光量を調整する .....	53
光源の明るさを設定する .....	54
音量ボタンで音量を調整する .....	55
サウンドモードを切り替える .....	56
サウンドモードの種類 .....	56

## プロジェクターの便利な機能 **57**

照明機能を使用する（アンビエントライト）（EF-72） .....	58
スタンバイ状態でアンビエントライトを使用する .....	58
プロジェクターをBluetooth®スピーカーとして使用する .....	59
映像を一時的に停止する .....	60
Google Cast™を使用する .....	61
HDMI CEC機能 .....	62
HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する .....	62
Epson Projector Updateでファームウェアを更新する .....	63
プロジェクターを初期化する .....	64

## メニューの設定 **65**

プロジェクターメニューを操作する .....	66
チャンネルと入力メニュー .....	67
プロジェクターメニュー .....	68
ディスプレイと音メニュー .....	69
その他のメニュー .....	71
ネットワークとインターネットメニュー .....	71

アカウントとプロフィールメニュー .....	71
プライバシーメニュー .....	71
アプリメニュー .....	71
システムメニュー .....	71
ユーザー補助メニュー .....	72
リモコンとアクセサリメニュー .....	72
ヘルプとフィードバックメニュー .....	72

## プロジェクターをメンテナンスする **73**

プロジェクターのメンテナンス .....	74
レンズを清掃する .....	75
本機を清掃する .....	76
エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする .....	77
エアフィルターと吸気口を清掃する .....	77

## 困ったときに **79**

トラブルの対処方法 .....	80
インジケータの見方 .....	81
電源に関するトラブル .....	83
電源が入らない .....	83
予期せず電源が切れる .....	83
映像に関するトラブル .....	84
映像が表示されない .....	84
映像がゆがむ .....	85
映像がぼやける .....	85
映像の一部が表示されない .....	86
映像にノイズが入る、乱れる .....	86
映像の明るさや色合いが違う .....	87
映像が上下反転して表示される .....	87
自動形状補正で映像を補正できない .....	87

音声に関するトラブル .....	89	著作権について .....	111
音が出ない、小さすぎるなどのトラブル .....	89		
Bluetoothスピーカーモードでのトラブル .....	89		
リモコン操作に関するトラブル .....	91		
HDMI CECに関するトラブル .....	92		
Wi-Fiネットワークに関するトラブル .....	93		
コンテンツの視聴に関するトラブル .....	94		
<b>付録</b> .....	<b>95</b>		
オプション .....	96		
設置用金具 .....	96		
スクリーンサイズと投写距離 .....	97		
対応解像度 .....	99		
本機仕様 .....	100		
ACアダプター .....	101		
接続端子 .....	101		
Bluetooth仕様 .....	102		
外形寸法図 .....	104		
安全規格対応シンボルマークと説明 .....	106		
警告ラベル .....	108		
用語解説 .....	109		
一般のご注意 .....	110		
使用限定について .....	110		
本機を日本国外へ持ち出す場合の注意 .....	110		
瞬低（瞬時電圧低下）基準について .....	110		
JIS C 61000-3-2適合品 .....	110		
商標について .....	110		
ご注意 .....	111		

# マニュアル中の表示の意味

## 安全に関する表示

本製品および取扱説明書には、製品を安全にお使いいただくために絵表示が使われています。

人体への危害や財産への損害を防ぐために、次の絵表示で表記された説明は、内容をよくお読みいただいた上で、説明に従ってお取り扱いください。

 <b>警告</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## 一般情報に関する表示

 <b>注意</b>	注意して取り扱わないと、本製品の故障や損傷の原因となるおそれがある内容を記載しています。
	知っておくと便利な関連情報を記載しています。
 ボタン	リモコンまたは操作パネルのボタン名称を示しています。 例：  ボタン
[メニュー名/設定名]	プロジェクターのメニューや設定の名称を示しています。 例： [プロジェクター] メニューを選択します。  [プロジェクター] > [台形補正] > [自動形状補正]
	関連事項を記載しているページを示しています。
	プロジェクターのメニューの階層を示しています。

▶▶ 関連項目

- 「マニュアルの使い方と情報の探し方」 [p.7](#)
- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 [p.8](#)

PDFマニュアルでは、探したい情報のキーワードから該当箇所を検索したり、しおりから直接ジャンプしたりすることができます。また、必要なページだけ印刷することもできます。ここでは、PDFマニュアルをコンピュータのAdobe Reader Xで開いた場合の使い方を説明します。

## ▶ 関連項目

- 「キーワードで検索する」 p.7
- 「しおりから直接ジャンプする」 p.7
- 「必要なページだけ印刷する」 p.7

## キーワードで検索する

[編集] メニューの [高度な検索] をクリックします。検索ボックスに探したい情報のキーワード（語句）を入力して、[検索] をクリックします。キーワードの該当箇所が一覧で表示されます。表示された文字列をクリックすると、該当ページにジャンプします。

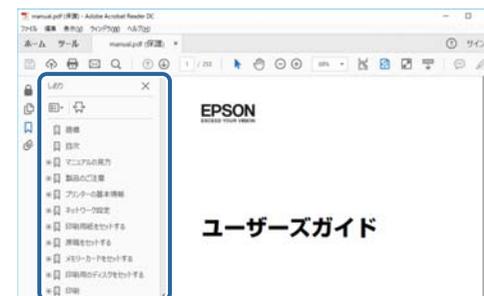


## しおりから直接ジャンプする

タイトルをクリックするとそのページにジャンプします。+または>をクリックすると下の階層のタイトルが表示されます。ジャンプ前のページに戻りたいときは、キーボードで以下の操作をします。

- Windows : [Alt] キーを押したまま←キーを押します。

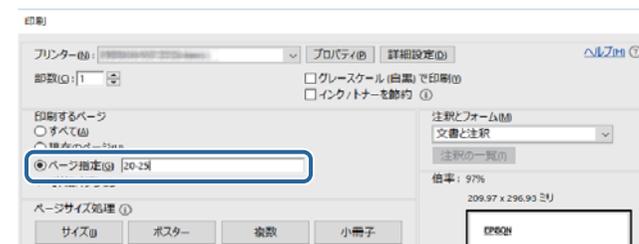
- Mac OS : commandキーを押したまま←キーを押します。



## 必要なページだけ印刷する

紙で読みたいページだけを抜き出して印刷できます。[ファイル] メニューの [印刷] をクリックして、[印刷するページ] の [ページ指定] で印刷したいページを指定します。

- 連続したページの指定は、開始ページと終了ページの間にハイフンを入れます。  
例：20-25
- 連続していない複数ページの指定は、ページをカンマで区切ります。  
例：5,10,15



説明書や仕様書の最新バージョンは、EPSONのWebサイトからダウンロードできます。

[epson.jp/support/used/ks/14.htm](https://www.epson.jp/support/used/ks/14.htm)にアクセスし、機種名を入れてください。

# プロジェクターを使用する前に

本機の各部名称について説明します。

## ▶▶ 関連項目

- 「プロジェクターの各部名称と働き」 [p.10](#)

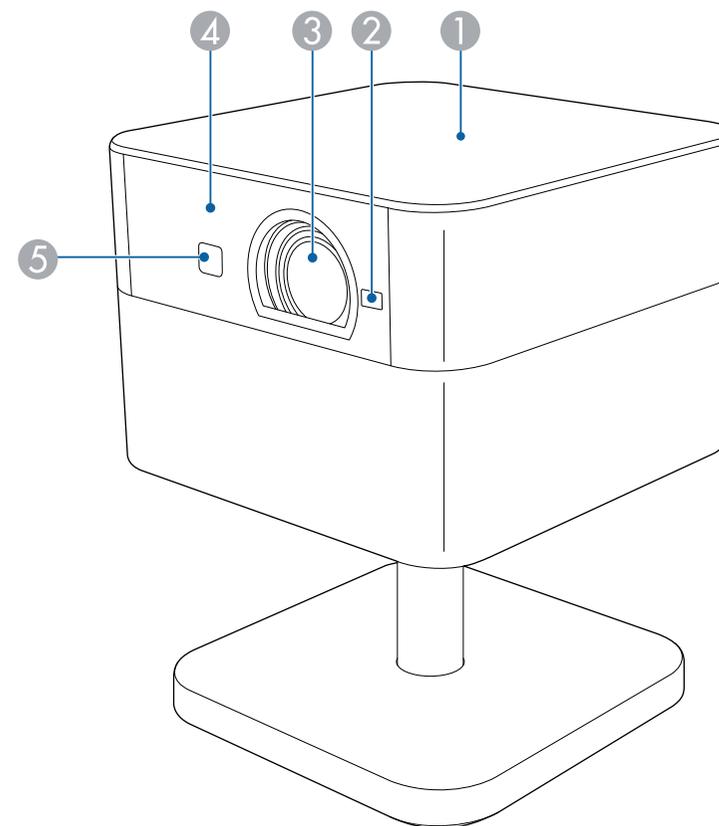
本機の各部名称とその働きについて説明します。  
本書では断りがないかぎり、EF-62のイラストを用いて説明しています。

## ▶ 関連項目

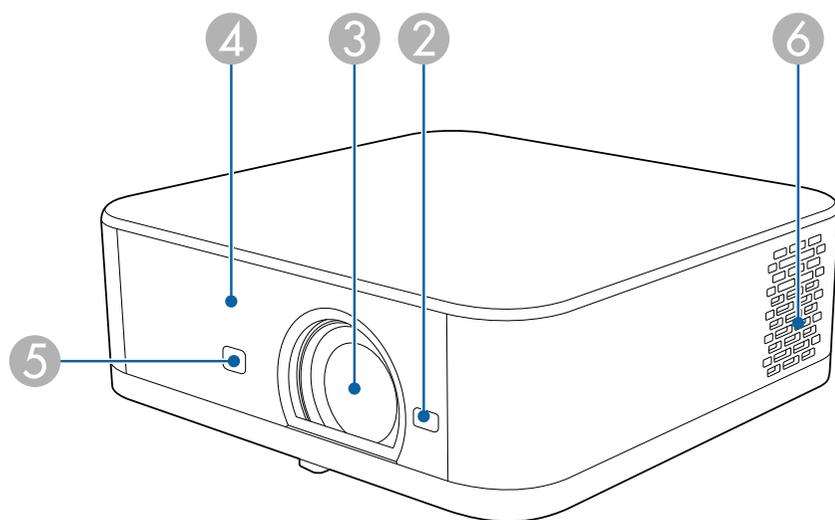
- 「プロジェクターの各部名称 - 前面/側面」 p.10
- 「プロジェクターの各部名称 - 背面/側面」 p.11
- 「プロジェクターの各部名称 - 底面」 p.13
- 「プロジェクターの各部名称 - リモコン」 p.16

## プロジェクターの各部名称 - 前面/側面

EF-72/EF-71 (スタンド付きモデル)



EF-62/EF-61



名称	働き
⑥ スピーカー (EF-62/EF-61)	音声を出力します。

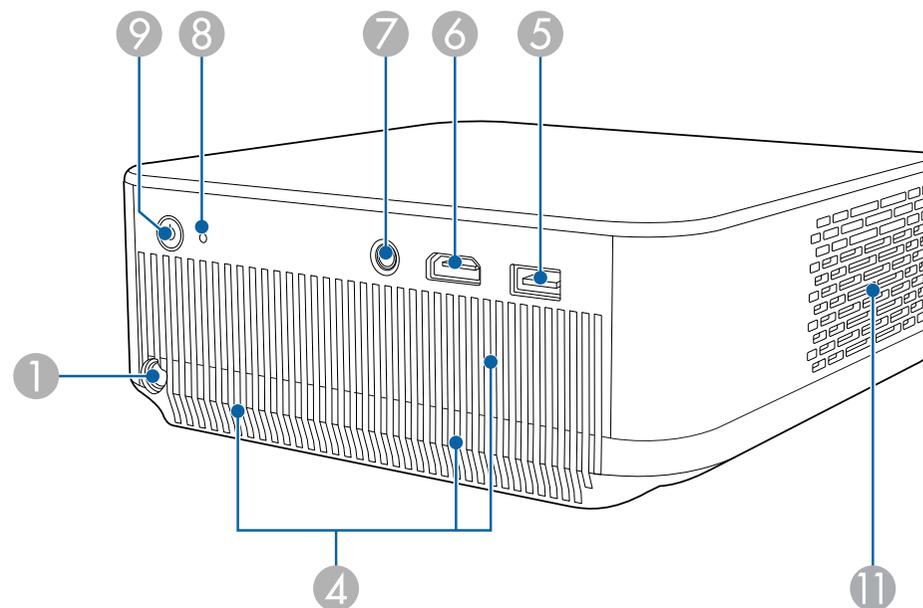
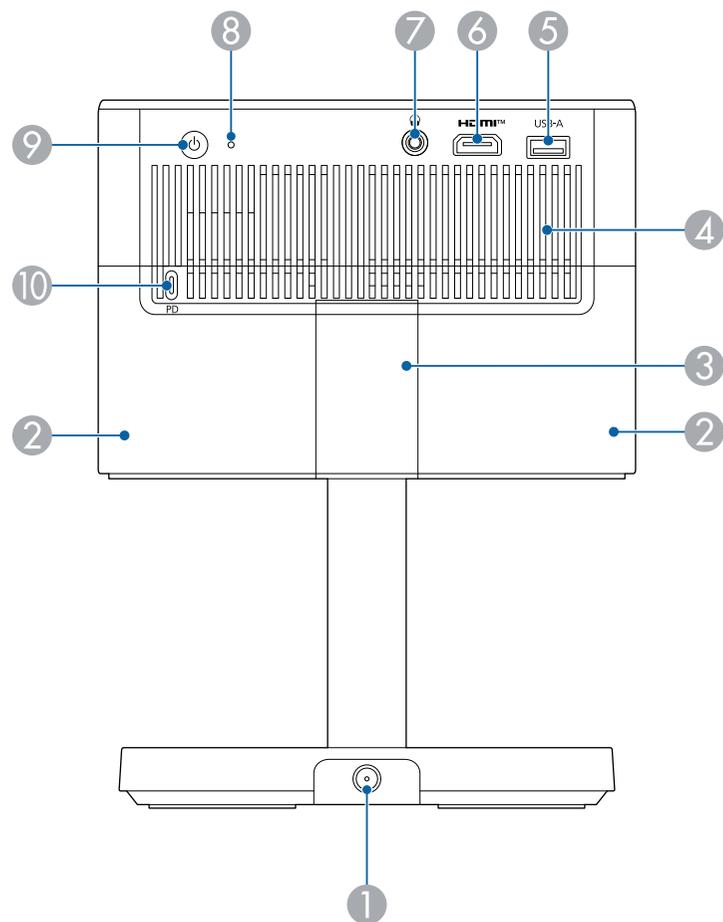
▶▶ 関連項目

- 「リモコンを操作する」 p.29

## プロジェクターの各部名称 - 背面/側面

EF-72/EF-71 (スタンド付きモデル)

名称	働き
① タッチセンサー (EF-72)	<p>天面の中央部分に触れると、プロジェクター底面のライトが点灯します。(アンビエントライト) 天面に触れるたびにライトの明るさが変わります。 長押しすると、ライトの色や明るさを切り替えられます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>注意</b> プロジェクターの天面に強い圧力をかけないでください。タッチセンサーが故障するおそれがあります。</p> </div>
② センサー	投写面までの距離を測定し、映像の形状を補正します。
③ 投写レンズ	ここから映像を投写します。
④ リモコン受光部	リモコン信号を受信します。
⑤ カメラ	映像の形状とピントを自動的に補正します。



EF-62/EF-61

名称	働き
① ACアダプター端子	ACアダプターを接続します。
② スピーカー (EF-72/EF-71)	音声を出力します。
③ ファブリックカバー (EF-72/EF-71)	取り外し可能なファブリックカバーです。  <b>注意</b> プロジェクターを上向きに60度以上傾けるときは、ファブリックカバーを取り外してください。そのまま傾けると、プロジェクターやファブリックカバーを破損するおそれがあります。

名称	働き
④ 排気口	<p>本機内部を冷却した空気の吐き出し口です。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>⚠ 注意</b>                      投写中は手や顔を排気口に近づけたり、熱による悪影響を受けるものを排気口の近くに置かないでください。排気口から温風が出るため、やけどや変形、事故の原因となります。</p> </div>
⑤ USB-A端子	<p>ウェブカメラ、外付けハードディスク、キーボードなどの市販のUSB機器を接続します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> すべてのUSB機器の動作を保証するものではありません。</p> </div>
⑥ HDMI端子	<p>HDMIに対応したビデオ機器やコンピューターの信号を入力します。                      この端子はHDMI eARCとARCに対応しています。                      本機はHDCP 1.4/2.3に対応しています。(EF-72/EF-62)                      本機はHDCP 1.4に対応しています。(EF-71/EF-61)</p>
⑦ Audio Out端子	<p>投写中の入力ソースの音声をヘッドフォンに出力します。</p>
⑧ ステータスインジケータ	<p>本機の状態を表示します。</p>
⑨ 電源ボタン	<p>本機の電源をオン/オフします。</p>

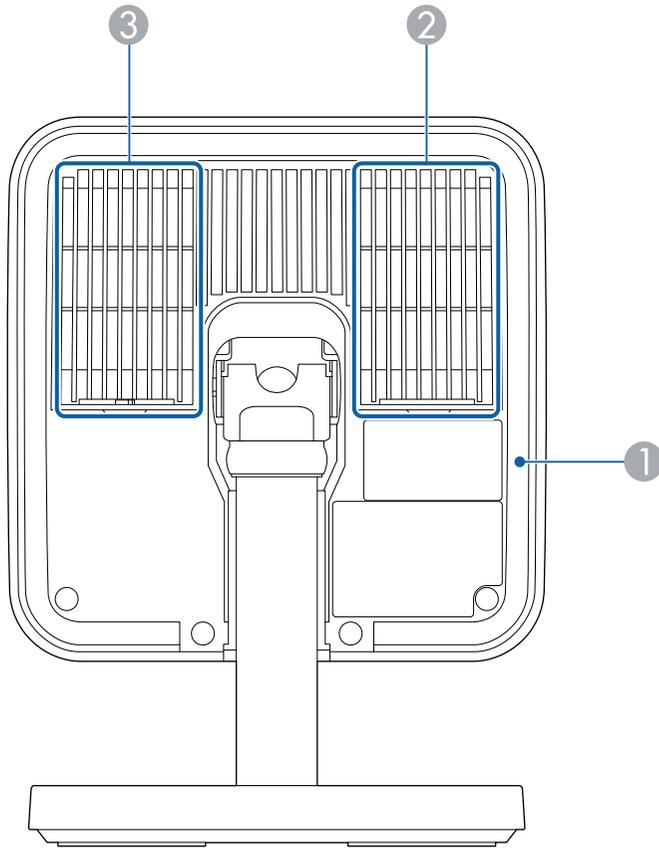
名称	働き
⑩ USB-C端子 (EF-72)	<p>ACアダプターが使用できないときに、モバイルバッテリーから電源を供給します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> 本機のUSB-C端子はモバイルバッテリーからの給電以外には使用できません。</p> </div>
⑪ スピーカー (EF-62/EF-61)	<p>音声を出力します。</p>

▶▶ 関連項目

- 「プロジェクターを接続する」 [p.25](#)
- 「セーフティワイヤーを取り付ける (EF-72/EF-71)」 [p.24](#)
- 「インジケータの見方」 [p.81](#)

## プロジェクターの各部名称 - 底面

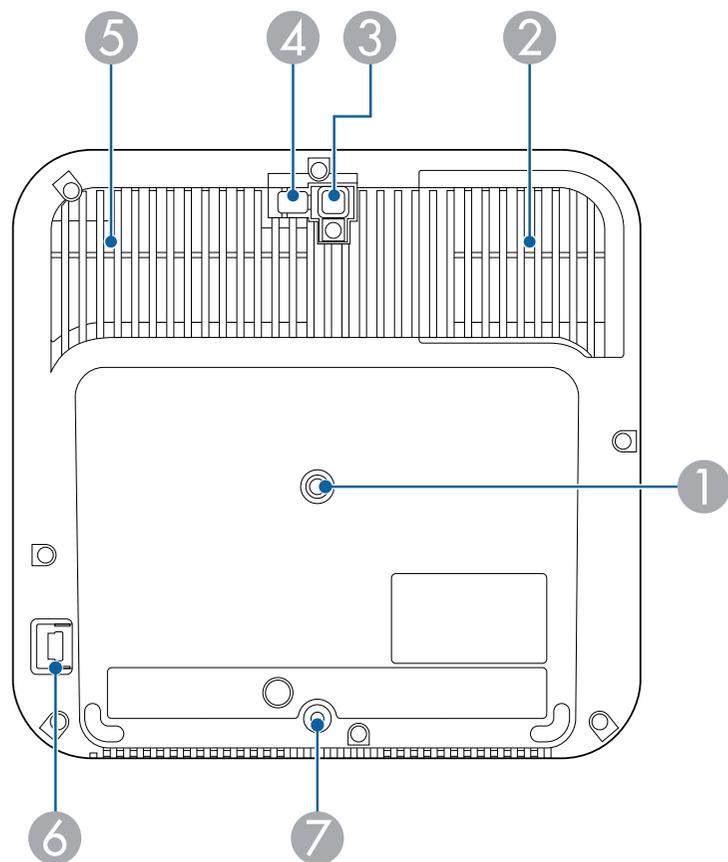
**EF-72/EF-71 (スタンド付きモデル)**



名称	働き
② 吸気口 (エアフィルター)	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。  <b>注意</b> この部分に強い圧力をかけないでください。交換不要な内部のフィルターが外れるおそれがあります。
③ 吸気口	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。

EF-62/EF-61

名称	働き
① ライト (アンビエントライト) (EF-72)	プロジェクターの天面に触れると点灯します。



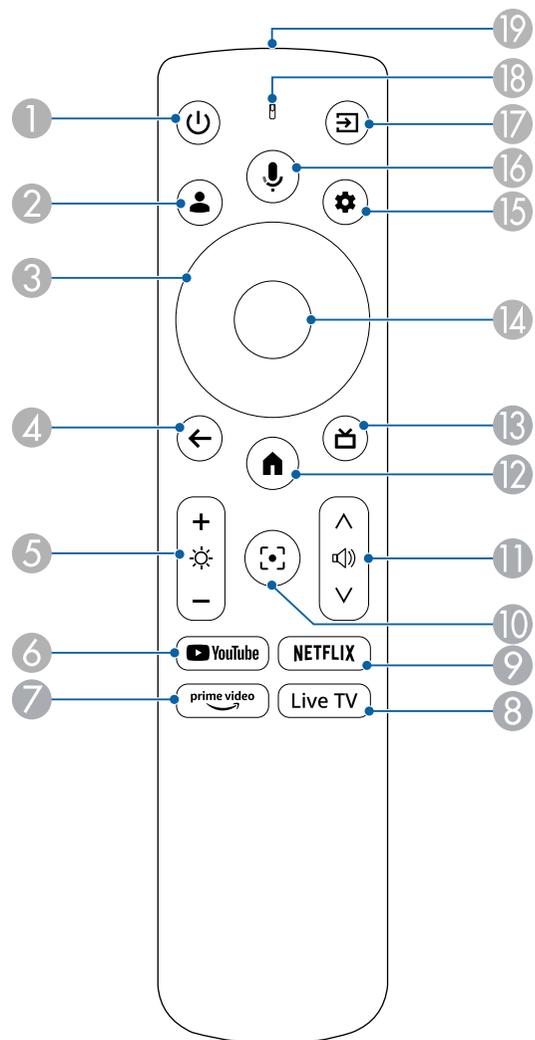
名称	働き
③ フロントフット	机上に設置したときに、フットを伸ばして映像の高さを調整します。
④ フットレバー	フットレバーを押して、フロントフットを伸縮させます。
⑤ 吸気口	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。
⑥ Service端子	通常は使用しません。
⑦ セーフティーワイヤー取り付け部	落下防止用のセーフティーワイヤーを取り付けます。

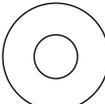
### ▶▶ 関連項目

- 「プロジェクターを三脚やプロジェクタースタンドに取り付ける（床置き・天吊り）（EF-62/EF-61）」 [p.22](#)
- 「映像の高さを調整する（EF-62/EF-61）」 [p.41](#)
- 「エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする」 [p.77](#)

名称	働き
① 三脚ねじ穴	市販の三脚に取り付けるときに使います。
② 吸気口（エアフィルター）	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffffcc;"> <p><b>注意</b> この部分に強い圧力をかけないでください。交換不要な内部のフィルターが外れるおそれがあります。</p> </div>

## プロジェクターの各部名称 - リモコン



名称	働き
① 電源ボタン 	本機の電源をオン/オフします。
② ユーザープロフィールボタン 	ユーザープロフィールを表示します。
③ 上下左右ボタン 	ホーム画面上のアイコンを選択して、オンラインコンテンツを再生します。 メニューの表示中に押すと、メニュー項目を選択します。
④ 戻るボタン 	実行中の機能を終了します。 メニューの表示中に押すと、前のメニュー階層に戻ります。
⑤ 明るさ調整ボタン 	映像の明るさを調整します。
⑥ YouTubeボタン 	YouTubeアプリを開きます。
⑦ Prime Videoボタン 	Amazon Prime Videoアプリを開きます。
⑧ Live TVボタン 	Live TVアプリを開きます。  Live TVは、国や言語により使用できない場合があります。

名称	働き
9 Netflixボタン 	Netflixアプリを開きます。
10 フォーカスボタン 	ピント調整画面を表示します。左右ボタンを押してピントを調整します。
11 音量上げ/下げボタン 	スピーカーやヘッドフォンの音量を調整します。
12 ホームボタン 	ホーム画面を表示します。
13 HDMIボタン 	HDMIソースに切り替えます。
14 【決定】ボタン 	メニューの表示中に押すと、選択項目を決定して、次の階層に進みます。
15 設定ボタン 	ダッシュボード画面を表示します。
16 Googleアシスタントボタン 	このボタンを押して、「OK Google」と言って操作を開始します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                          Googleアシスタントは、国や言語により使用できない場合があります。                     </div>

名称	働き
17 入力検出ボタン 	入力ソースの一覧を表示します。
18 インジケーター/マイク 	リモコン信号が出力されているときに点灯します。 Googleアシスタントボタンを押したときに、ここで音声を感知します。
19 リモコン発光部	リモコン信号を出力します。

## ▶▶ 関連項目

- 「プロジェクターの電源を入れる」 [p.35](#)
- 「光源の明るさを設定する」 [p.54](#)
- 「音量ボタンで音量を調整する」 [p.55](#)
- 「ピントを調整する」 [p.48](#)
- 「プロジェクターメニューを操作する」 [p.66](#)
- 「投写映像を切り替える」 [p.49](#)

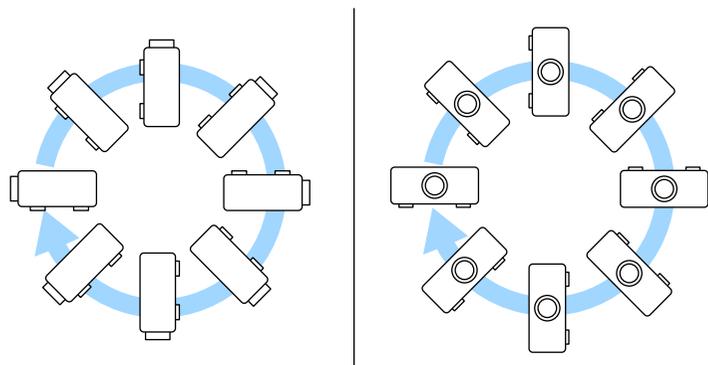
# プロジェクターを準備する

プロジェクターの準備方法を説明します。

## ▶ 関連項目

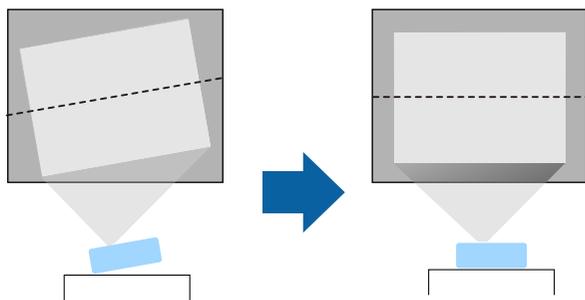
- 「プロジェクターの設置」 [p.19](#)
- 「プロジェクターを接続する」 [p.25](#)
- 「リモコンに電池を取り付ける」 [p.29](#)
- 「プロジェクターを設定する」 [p.31](#)
- 「Epson Projector Updateについて」 [p.33](#)

平らな場所にプロジェクターを置いて映像を投写します。  
市販の三脚やプロジェクタースタンドに取り付けることもできます。  
(EF-62/EF-61)  
本機はさまざまな角度で映像を投写できます。垂直、水平方向ともに設置角度に制限はありません。(EF-62/EF-61)



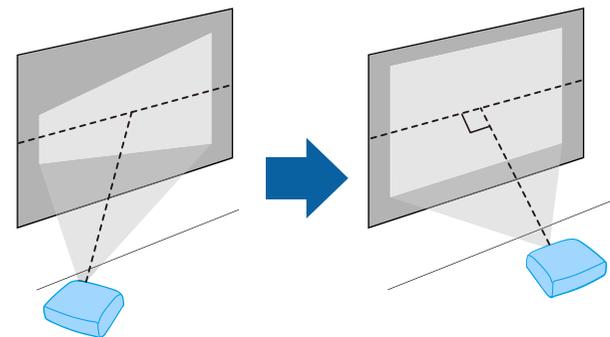
プロジェクターの設置位置を決めるときは、以下の点に注意してください。

- プロジェクターは水平で安定した場所に置くか、本製品に対応した金具を使用して取り付けます。



- 通気のためにプロジェクターの周囲に十分なスペースを確保します。通気の妨げになるものをプロジェクター上面や周囲に置かないでください。

- 投写面に対してプロジェクターを平行に設置します。



投写面に対して平行に設置できないときは、プロジェクターの機能を使って映像のゆがみを補正します。投写映像の画質を維持するためには、プロジェクターの設置位置を調整して映像サイズや形状を調整することをお勧めします。

## ⚠ 警告

- 天井からプロジェクターを吊り下げるときは、天吊り金具の取り付けが必要となります。プロジェクターを正しく設置しないと、落下により破損やけがの原因となることがあります。(EF-62/EF-61)
- プロジェクターの三脚ねじ穴に、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などを使用しないでください。プロジェクターにそれらの溶剤が付着すると、プロジェクターのケースが割れ、プロジェクターが落下するおそれがあります。(EF-62/EF-61)
- 湿気やホコリの多い場所や、油煙や湯気が当たる場所（調理場所、ご家庭のキッチン、加湿器の近くなど）にプロジェクターを設置しないでください。火災・感電の原因となることがあります。また、油によりプロジェクターの外装ケースが劣化し、天吊り設置したプロジェクターが落下するおそれがあります。

### 外装ケースの劣化・破損によりプロジェクターの落下が想定される環境例

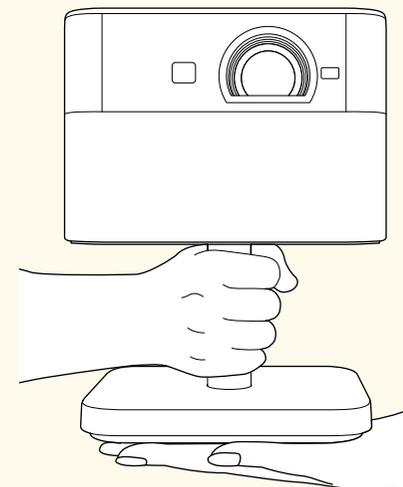
- 油煙が多い場所（工場、調理場所、ご家庭のキッチンなど）
- 溶剤、薬品が揮発している空間（工場、実験室など）
- 油、洗剤、薬品などが付着する場所（工場、調理場所、ご家庭のキッチンなど）
- アロマオイルを頻繁に焚く場所（リラクゼーションルームなど）
- イベント演出などのスモーク（油成分以外も含む）や、泡が多い場所（イベント演出装置の周辺など）
- 加湿器の近く

## ⚠ 警告

- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- ホコリや塵の多い場所で使用・保管はしないでください。投写映像の品質が劣化したり、エアフィルターにホコリが詰まって、故障や火災につながる可能性があります。
- 不安定な場所や荷重範囲を超える場所には設置しないでください。落下や転倒によりけがや事故の原因となります。
- 高い場所に設置するときは、地震などの非常時の安全確保と事故防止のため、ワイヤーなどを用いて落下防止策を施してください。正しく設置しないと、落下によりけがや事故の原因となります。
- 塩害が発生する場所や、温泉の硫黄ガスなどの腐食性ガスが発生する場所には設置しないでください。腐食による落下の原因となることがあります。また、本機の故障の原因となることがあります。

## ⚠ 注意

本機を動かすときは、必ず両手でスタンドを持って動かしてください。落下により事故やけがの原因となります。(EF-72/EF-71)



## ▶ 関連項目

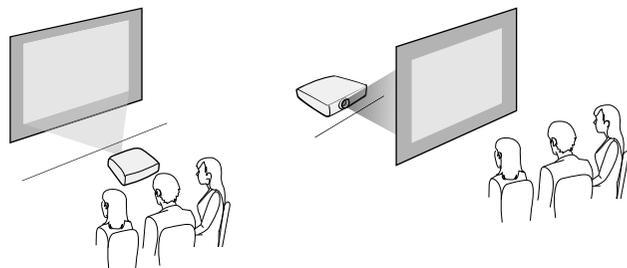
- 「プロジェクターの設置・取り付け」 p.21
- 「投写距離」 p.22
- 「プロジェクターを三脚やプロジェクタースタンドに取り付ける（床置き・天吊り）（EF-62/EF-61）」 p.22
- 「セーフティーワイヤーを取り付ける（EF-72/EF-71）」 p.24
- 「映像の高さを調整する（EF-62/EF-61）」 p.41
- 「映像の位置を調整する（EF-72/EF-71）」 p.42
- 「ピントを調整する」 p.48
- 「映像の形状を補正する」 p.44
- 「ピントを調整する」 p.48

## プロジェクターの設置・取り付け

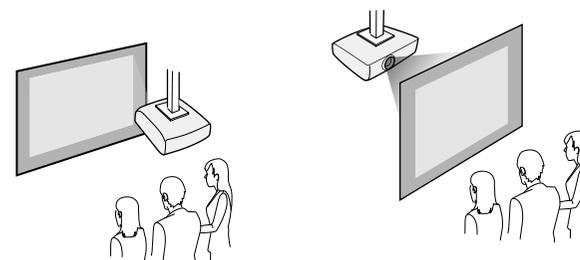
本機は以下の方法で設置・取り付けできます。

設置する場所や方法に合わせて、メニューで「設置モード」を選択します。

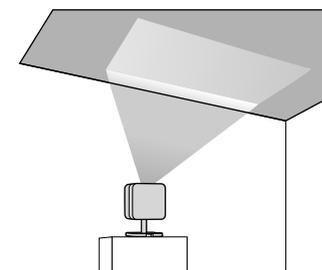
フロント/リア



フロント・天吊り/リア・天吊り（EF-62/EF-61）



天井投写（EF-72/EF-71）



### ⚠ 注意

本機の投写レンズを物で覆ったり、ふさいだりしないでください。内部に熱がこもり、誤動作の原因となることがあります。

### 注意

ケーブルが接続された状態で本機を天井に向けてると、ケーブルや端子の故障の原因となります。（EF-72/EF-71）

## ▶ 関連項目

- 「設置に関するご注意」 p.22
- 「設置モードを選択する」 p.40

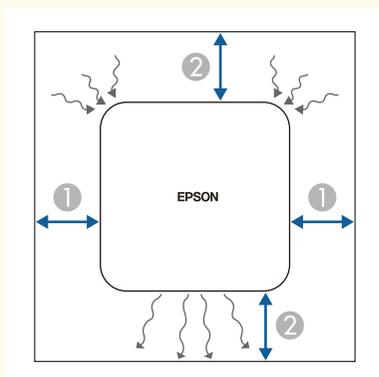
## 設置に関するご注意

設置の際には以下の点にご注意ください。

### 設置スペース

#### 注意

吸気口・排気口をふさがないように、本機の周辺には以下のスペースを確保してください。



① 10 cm

② 20 cm

#### ⚠ 注意

同梱のACアダプターは、本機から30 cm以上離して設置してください。本機からの熱によってACアダプターが高温になると、本機が正しく動作しないことがあります。

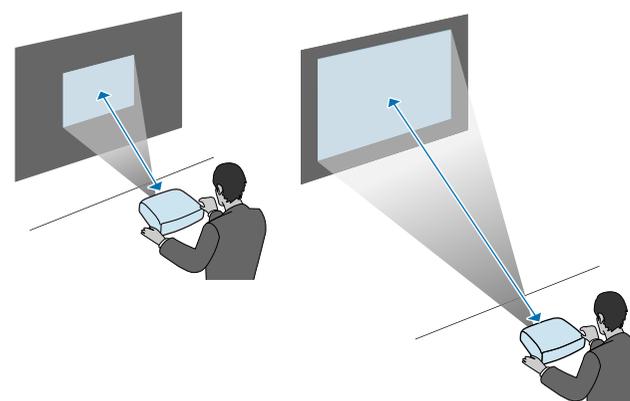
## 投写距離

本機からスクリーンまでの距離に応じて、映像の大きさが決まります。本機をスクリーンから遠ざけるほど、投写される映像は大きくなります。アスペクト比などの設定によっても大きさが変わります。

スクリーンサイズと投写距離を参考にして、本機からスクリーンまでのおおよその距離を決めてください。



投写映像を補正すると、映像は少し小さくなります。



### ▶ 関連項目

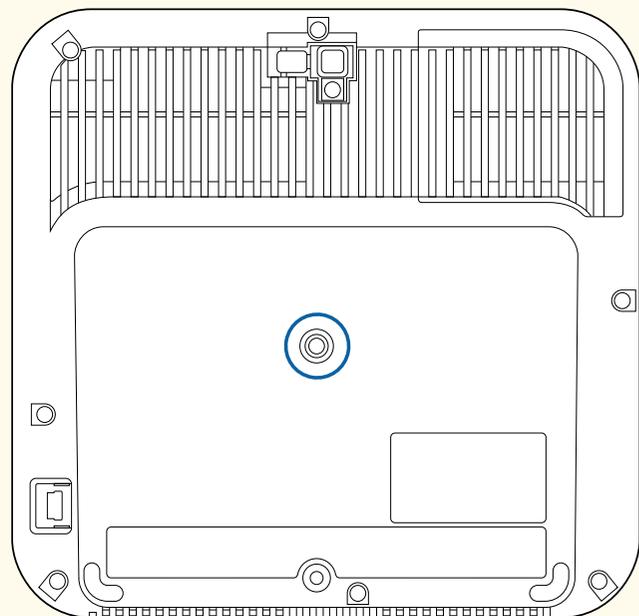
- 「スクリーンサイズと投写距離」 p.97

## プロジェクターを三脚やプロジェクタースタンドに取り付ける（床置き・天吊り）（EF-62/EF-61）

本機は市販の三脚やプロジェクタースタンドに取り付けることができます。



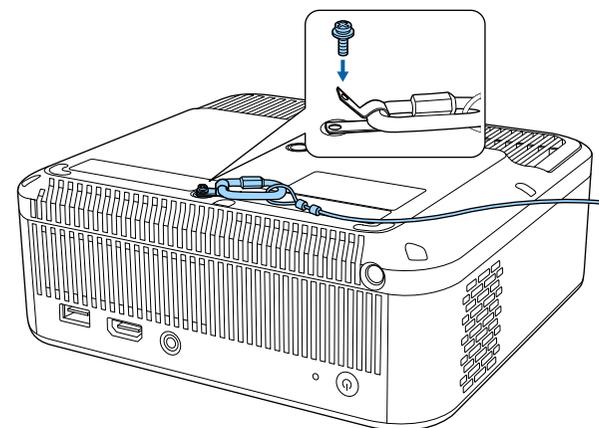
- 三脚やプロジェクタースタンドを三脚ねじ穴に固定するには、1/4-20 UNCサイズ（外径6.35 mm）の固定ネジ（ねじ込み深さ8.4 mm以上）を使用してください。



- 天井などの高い位置に設置するときは、安全のため、オプションのセーフティーワイヤーセット（ELPWR01）を取り付けます。

**1** 底面を上に戻します。

**2** 天井などの高い位置に設置するときは、オプションのセーフティーワイヤーセット（ELPWR01）をセーフティーワイヤー取付け部に取り付けます。



**3** 本機を三脚やプロジェクタースタンドに取り付けます。詳しくは、三脚やプロジェクタースタンドに付属の取扱説明書をご覧ください。

## ⚠ 警告

三脚に取り付けるときは、以下の点にご注意ください。

- 十分な耐荷重のある三脚をお使いください。
- 三脚のねじを、本機の三脚ねじ穴に確実に固定してください。ねじが緩むと、落下や転倒によりけがや事故の原因となります。
- 本機を三脚に取り付けたまま持ち運ばないでください。三脚の固定部に負荷がかかり、落下や故障の原因となります。
- 三脚は水平で安定した場所に設置してください。不安定な場所に設置すると、転倒によりけがや事故の原因となります。
- 三脚の取り扱いや使用上の注意については、三脚に付属の取扱説明書をご覧ください。

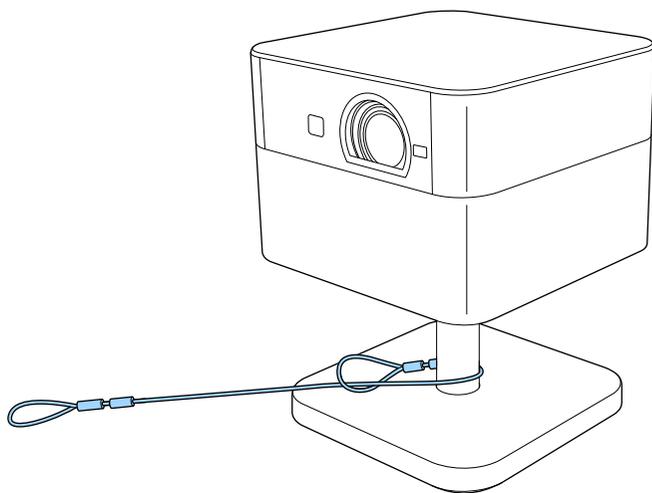


天井などの高い位置に設置するときは、オプションのセーフティーワイヤーセット（ELPWR01）のカラビナを、十分な強度のある場所につなぎます。

## セーフティーワイヤーを取り付ける（EF-72/EF-71）

高い位置に設置するときは、安全のため、オプションのセーフティーワイヤーセット（ELPWR01）を取り付けます。

- 1** スタンドの支柱にセーフティーワイヤーを巻き付け、ループ部分に通します。



- 2** もう一方のループを、十分な強度のある場所に取り付けます。

### ▶ 関連項目

- 「プロジェクターの各部名称 - 背面/側面」 [p.11](#)

プロジェクターと映像機器の接続方法を説明します。

## 注意

- 接続する前に、使用するケーブルのコネクターの形状と向きを確認してください。形状が合わないコネクタを無理に端子に押し込まないでください。お使いの機器、プロジェクターの破損や故障の原因となります。
- 接続機器のケーブルを本機に接続した後に、本機の電源コードを接続してください。
- ケーブルが接続された状態で本機を天井に向けると、ケーブルや端子の故障の原因となります。(EF-72/EF-71)

## ▶ 関連項目

- 「HDMIケーブルでビデオ機器と接続する」 [p.25](#)
- 「HDMIケーブルでコンピューターと接続する」 [p.25](#)
- 「USB機器を接続する」 [p.26](#)
- 「ヘッドフォンを接続する」 [p.27](#)
- 「eARC/ARC対応AVアンプを接続する」 [p.27](#)

## HDMIケーブルでビデオ機器と接続する

HDMI端子を搭載したビデオ機器を使用しているときは、HDMIケーブルでプロジェクターとビデオ機器を接続できます。

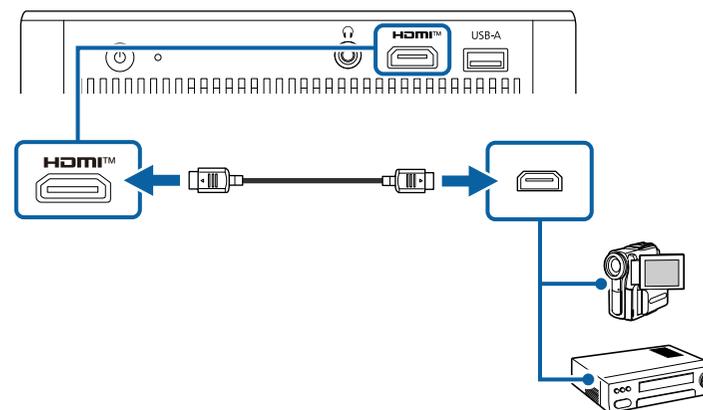
## 注意

あらかじめビデオ機器の電源を切ってください。ビデオ機器の電源が入った状態で接続すると、故障の原因となります。



- 接続する機器の端子が特有の形状をしているときは、その機器に同梱またはオプションのケーブルで接続してください。
- ビデオ機器によっては、数種類の信号を出力できます。出力できる信号の種類は、お使いのビデオ機器に同梱の取扱説明書で確認してください。
- 4K 60Hz 4:4:4などの18 Gbps伝送帯域の信号を投写するときは、プレミアムハイスピードのHDMIケーブルをお使いください。適合していないケーブルを使用すると、正しく表示できないことがあります。

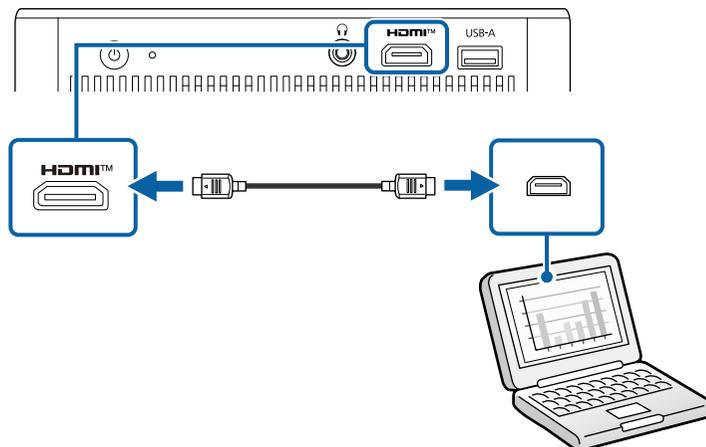
- 1** ビデオ機器のHDMI出力端子にHDMIケーブルを接続します。
- 2** ケーブルのもう一方のコネクタを本機のHDMI端子に接続します。



## HDMIケーブルでコンピューターと接続する

HDMI端子を搭載したコンピューターを使用しているときは、HDMIケーブルでプロジェクターとコンピューターを接続できます。

- 1 コンピューターのHDMI出力端子にHDMIケーブルを接続します。
- 2 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のHDMI端子に接続します。



## USB機器を接続する

以下のUSB機器をプロジェクターに接続すると、コンピューターやビデオ機器を接続しなくても映像を投写したり、音声を再生したりできます。

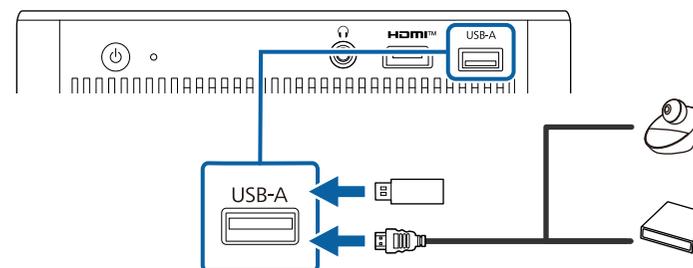
- マイク
- USBメモリー
- デジタルカメラ
- USBハードドライブ



- USB-A端子はすべてのUSB機器の動作を保証するものではありません。
- USB機器からコンテンツを投写するにはアプリが必要です。
- USBハードドライブは以下の要件を満たしている必要があります。
  - USBマストレージクラスに準拠していること（対応していないUSBマストレージクラスの機器もあります）
  - フォーマット形式がFAT16/32であること
  - USBハードドライブに付属のACアダプターから電源供給ができること（USBケーブルから電源供給を受けるハードドライブは推奨しません）
  - ハードドライブのパーティションは1つのみであること

- 1 USB機器に電源アダプターが付属しているときは、USB機器をコンセントに接続します。

- 2 本機のUSB-A端子に、以下のようにUSB機器を接続します。



## 注意

- USB機器に付属のUSBケーブル、または指定されたUSBケーブルを使用してください。
- USBケーブルが長すぎると機器が正しく動作しないことがあります。USBケーブルの長さは3m以下のものを推奨します。
- USBハブを使うと機器が正しく動作しないことがあります。事前に動作確認を行うことを推奨します。

- 3** USBケーブルのもう一方のコネクターをUSB機器に接続します。

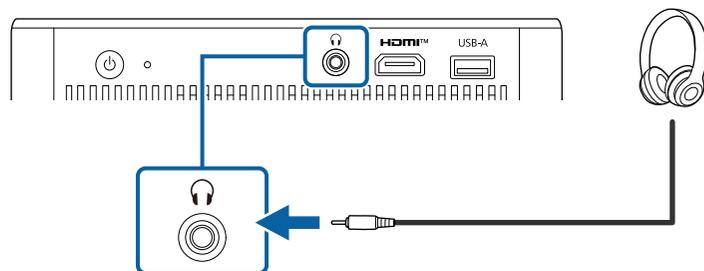
## ヘッドフォンを接続する

本機のAudio Out端子にはヘッドフォンを接続できます。本機のリモコンで音量を調整できます。

## 注意

本機のAudio Out端子は3極プラグのヘッドフォン専用です。3極プラグ以外のヘッドフォンを接続すると、音声は正常に再生されない可能性があります。

- 1** ヘッドフォンのケーブルを本機のAudio Out端子に接続します。



## ⚠ 注意

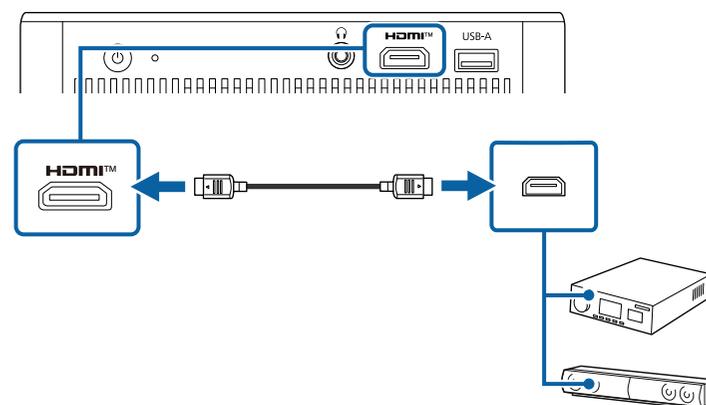
初めから音量を上げすぎないでください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。

電源を切る前に音量を下げておき、電源を入れた後で徐々に上げてください。

## eARC/ARC対応AVアンプを接続する

AVアンプやサウンドバーなどの外部スピーカーを使用するとき、これらの機器がHDMI端子を搭載していれば、イーサネット対応のHDMIケーブルを使って音声を出力できます。

- 1** アンプのHDMI出力端子（eARCまたはARC対応）にHDMIケーブルを接続します。
- 2** ケーブルのもう一方のコネクターを本機のHDMI端子に接続します。



- 3** 必要に応じてAVアンプやスピーカーの設定をします。詳しくはお使いの機器の取扱説明書をご覧ください。



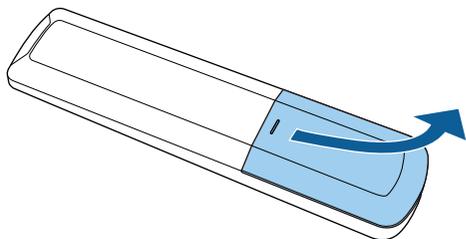
- 本機のHDMI端子からARC接続で音声を出力するには、メニューで [グローバルなCECコントロール] を [オン] に設定します。
  - ☛ [チャンネルと入力] > [入力] > [グローバルなCECコントロール]
- 音声が正しく出力されないときは、 [デジタル出力] の設定を [自動] から [PCM] に変更してみてください。
  - ☛ [ディスプレイと音] > [オーディオ出力] > [デジタル出力]
- eARC/ARCの対応音声形式については、『Supplemental A/V Support Specification』をご覧ください。

本機に付属の単4形電池2個をリモコンに取り付けます。

## 注意

電池を取り扱う前に、『安全にお使いいただくために』を必ずお読みください。

- 1 電池カバーを外します。

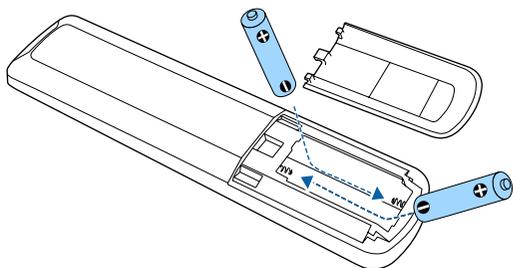


- 2 古い電池が入っていれば取り外します。



使用済みの電池は、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

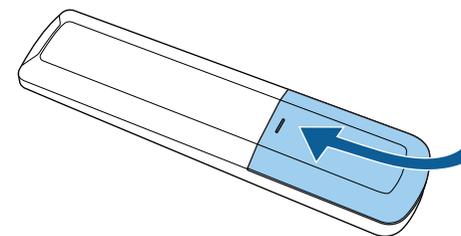
- 3 電池の + と - の向きを確認してリモコンにセットします。



## 警告

電池ホルダー内の表示を確認して、(+) (-) を正しく入れてください。電池の使い方を誤ると、電池の破裂・液もれにより、火災・けが・製品腐食の原因となることがあります。

- 4 電池カバーを閉め、カチッと音がするまで押し込みます。



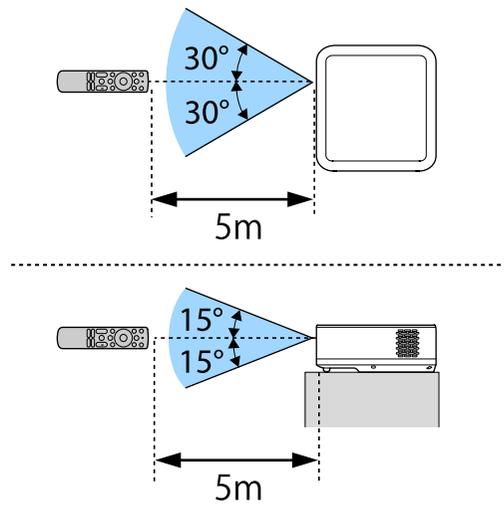
## ▶ 関連項目

- 「リモコンを操作する」 p.29

## リモコンを操作する

リモコンを使用して、室内の離れた場所からプロジェクターを操作できます。

リモコンは、本機のリモコン受光部に対して下図の角度で使用することをお勧めします。



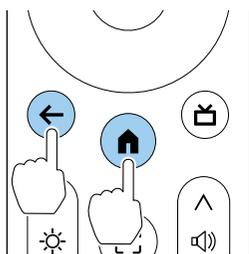
蛍光灯の強い光や直射日光が当たる環境ではリモコンを使用しないでください。プロジェクターが反応しないことがあります。リモコンを長期間使用しないときは、電池を取り外しておきます。

初めて本機の電源を入れたときには、初期設定が必要です。



初期設定が完了した後も、設定はいつでも変更できます。

- 1 本機の電源を入れます。
- 2 ペアリング画面が表示されたら、リモコンのボタンとボタンを同時に長押しして、本機とリモコンをペアリングしてください。



ペアリングが始まると、リモコンのインジケータが点滅します。終了すると、インジケータは消灯します。

- 3 言語選択画面が表示されたら、使用したい言語を選択します。次に、画面の指示に従って、お住まいの国と地域を設定します。

- 4 設定画面が表示されたら、画面の指示に従って必要な初期設定をします。



- より詳細な設定をするために、Googleアカウントでログインすることをお勧めします。
- Googleアカウントの作成方法については、Googleにお問い合わせいただくか、以下のWebサイトをご参照ください。  
[Googleアカウントヘルプ](#)

- 5 Wi-Fi設定画面が表示されたら、接続する無線LANを選択します。画面の指示に従って必要な設定をします。

- オンラインコンテンツを視聴するには、インターネット接続が必要です。Wi-Fiが使用できることを確認してください。
- アプリのダウンロードやオンラインコンテンツを視聴する際の通信料はお客様の負担となります。

- 6 画面の指示に従って、その他の設定をします。

- 7 EPSONのライセンス規約に同意すると、初期設定ウィザードが終了します。

初期設定が完了すると、ホーム画面が表示されます。

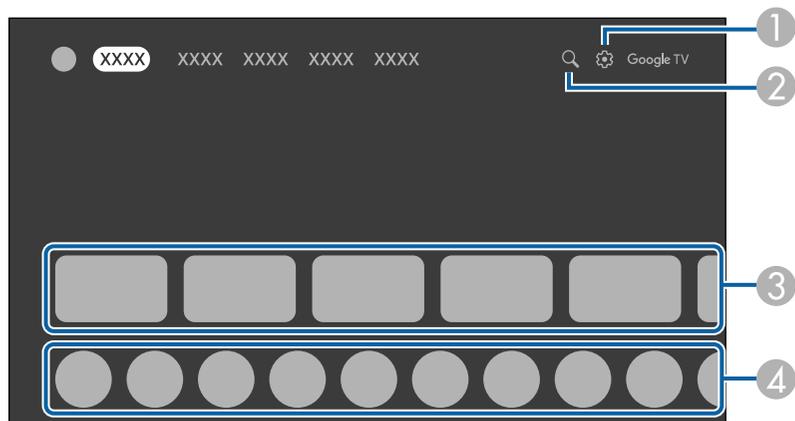
## ▶ 関連項目

- 「ホーム画面」 [p.31](#)

## ホーム画面

本機の電源を入れたときや、ボタンを押したときには、ホーム画面が表示されます。

ホーム画面を使うと、おすすめのオンラインコンテンツやアプリなどを簡単に選択できます。



	説明
①	ダッシュボードを表示します。
②	オンラインコンテンツを検索します。
③	おすすめのオンラインコンテンツを表示します。
④	ダウンロードしたアプリを表示します。



ホーム画面の内容は、プロジェクターファームウェアのバージョンによって異なります。

Epson Projector Updateアプリを使って、プロジェクターファームウェアを更新することができます。製品を快適にお使いいただくために、最新のファームウェアをお使いください。アプリをインストールし、アプリを起動して、ファームウェアが最新であることを確認してください。



Epson Projector Updateは、本機の初期設定ウィザードで自動インストールされます。自動インストールするためには、Googleアカウントでログインし、Wi-Fiを設定して、インターネットに接続してください。

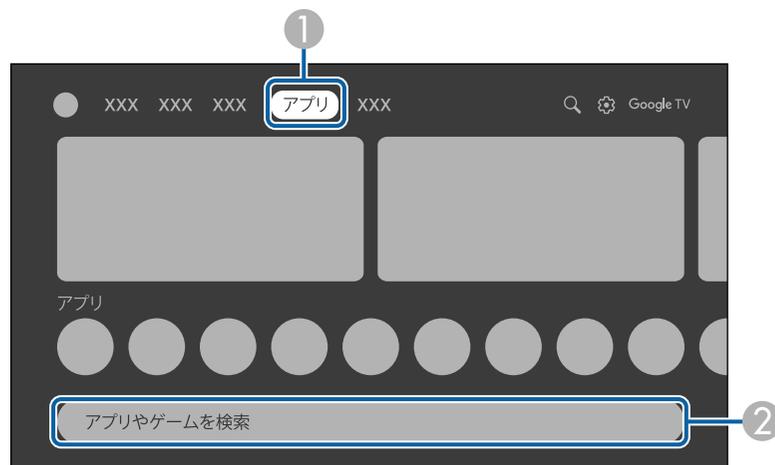
## ▶▶ 関連項目

- 「Epson Projector Updateをインストールする」 [p.33](#)

## Epson Projector Updateをインストールする

以下の手順でEpson Projector Updateをインストールします。

- 1** ホーム画面上部の [アプリ] を選択し、検索ウィンドウを選択します。



- 2** 「Epson Projector Update」を検索して、インストールします。



Epson Projector Update 🔍

- 3** Epson Projector Updateを起動して、最新のプロジェクターファームウェアがインストールされていることを確認します。

## ▶▶ 関連項目

- 「Epson Projector Updateでファームウェアを更新する」 [p.63](#)

# プロジェクターの基本機能を使用する

プロジェクターの基本機能を説明します。

## ▶ 関連項目

- 「プロジェクターの電源を入れる」 [p.35](#)
- 「プロジェクターの電源を切る（サスペンド状態）」 [p.39](#)
- 「設置モードを選択する」 [p.40](#)
- 「映像の高さを調整する（EF-62/EF-61）」 [p.41](#)
- 「映像の位置を調整する（EF-72/EF-71）」 [p.42](#)
- 「映像の形状を補正する」 [p.44](#)
- 「ピントを調整する」 [p.48](#)
- 「投写映像を切り替える」 [p.49](#)
- 「映像のアスペクト比を設定する」 [p.50](#)
- 「映像を最適化する（カラーモード）」 [p.51](#)
- 「映像を最適化する（詳細設定）」 [p.52](#)
- 「映像の光量を調整する」 [p.53](#)
- 「光源の明るさを設定する」 [p.54](#)
- 「音量ボタンで音量を調整する」 [p.55](#)
- 「サウンドモードを切り替える」 [p.56](#)

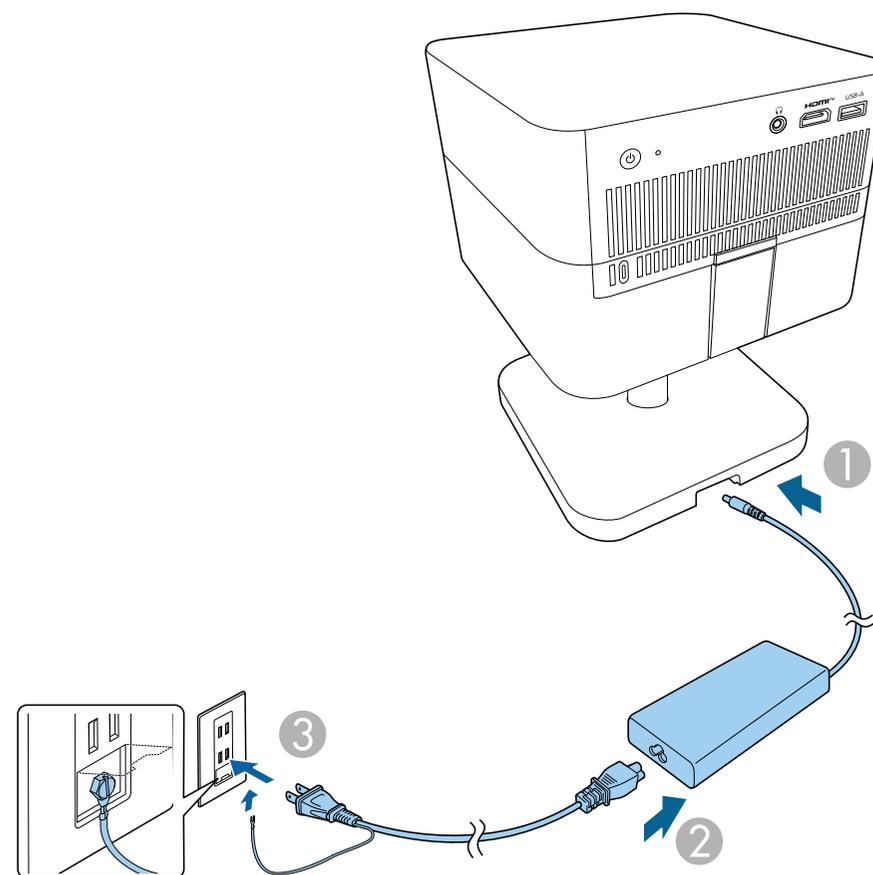
本機にビデオ機器を接続するときは、本機の電源を入れてから、ビデオ機器の電源を入れます。

- 1** ACアダプターを本機のACアダプター端子に接続します。
- 2** 電源コードをACアダプターに接続します。
- 3** 電源コードをコンセントに差し込みます。

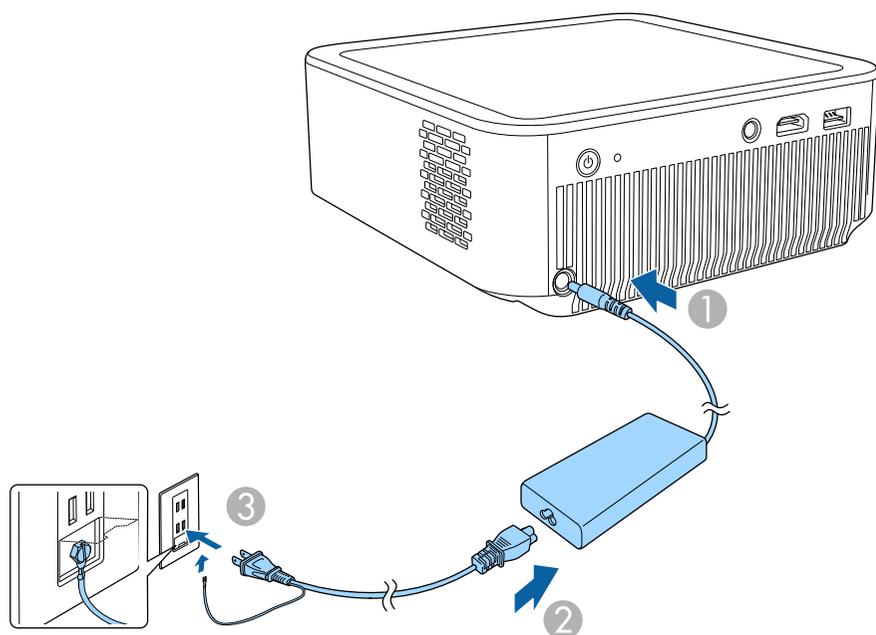
## ⚠ 警告

必ず接地接続を行ってください。接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、接地接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

EF-72/EF-71



EF-62/EF-61



本機はスタンバイ状態になります。スタンバイ状態は、プロジェクターに電力が供給されていて、電源が入っていない状態です。

- 4** プロジェクターまたはリモコンの電源ボタンを押して電源を入れます。  
ステータスインジケータが白く点灯します。  
[自動形状補正] により、映像のピントとゆがみを自動補正します。

## ⚠ 警告

- 投写中は本機のレンズをのぞきこまないでください。目に損傷を与えるおそれがあります。特にお子様の行動にご注意ください。
- 本機から離れた場所でリモコンを使って電源を入れるときは、レンズをのぞいている人がいないことを確認してください。
- 投写中に本などで投写光を遮らないでください。投写光を遮ると、光の当たる部分が高温になって溶けたり、やけどや火災の原因になります。また、反射した光でレンズ部が高温になり、本機が故障する原因となります。投写を中断するときは、本機の電源を切ってください。
- 本機の電源がオフのときでも、レンズの前に本や布などの可燃物を置かないでください。何らかの理由で予期せずにプロジェクターの電源がオンになった場合、火災の原因になることがあります。

## ▶▶ 関連項目

- 「ACアダプターを安全にお使いいただくために」 [p.36](#)
- 「USB-C端子を使ってプロジェクターの電源を入れる (EF-72)」 [p.37](#)

## ACアダプターを安全にお使いいただくために

同梱のACアダプターは以下の注意事項を必ず守ってご使用ください。

## ⚠ 警告

- 次のような異常のときは、すぐに本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。そのまま使用を続けると、火災・感電の原因となります。
  - ACアダプターから煙が出ている。
  - ACアダプターから異臭や異音がする。
  - ACアダプターが破損している。
  - ACアダプターの内部に水や異物が入った。

## ⚠ 警告

- ACアダプターを正しく使用しないと、故障、火災、感電の原因になることがあります。次のことを守り、安全にお使いください。
- 同梱のACアダプター以外は使用しないでください。
- 同梱のACアダプターは本機専用です。本機以外の製品では使用しないでください。
- ACアダプターに強い力や衝撃を加えないでください。
- 濡れた手でACアダプターを操作しないでください。
- ACアダプターを狭い場所に設置したり、布などをかぶせたりしないでください。
- 通電中のACアダプターに長時間触れないでください。低温やけどの原因になることがあります。
- ACアダプターに殺虫剤などの可燃性スプレーを吹きかけないでください。
- ACアダプターを高圧容器や電子レンジなどの加熱調理機器に入れないでください。
- ACアダプターを本機の排気口の近くに置かないでください。
- 電源コードをACアダプターに巻き付けて使用しないでください。

## USB-C端子を使ってプロジェクターの電源を入れる (EF-72)

背面のUSB-C端子にモバイルバッテリーを接続することで、本機を動作させることができます。電源の確保が困難な環境でも、モバイルバッテリーを活用することで本機を柔軟にご使用いただけます。



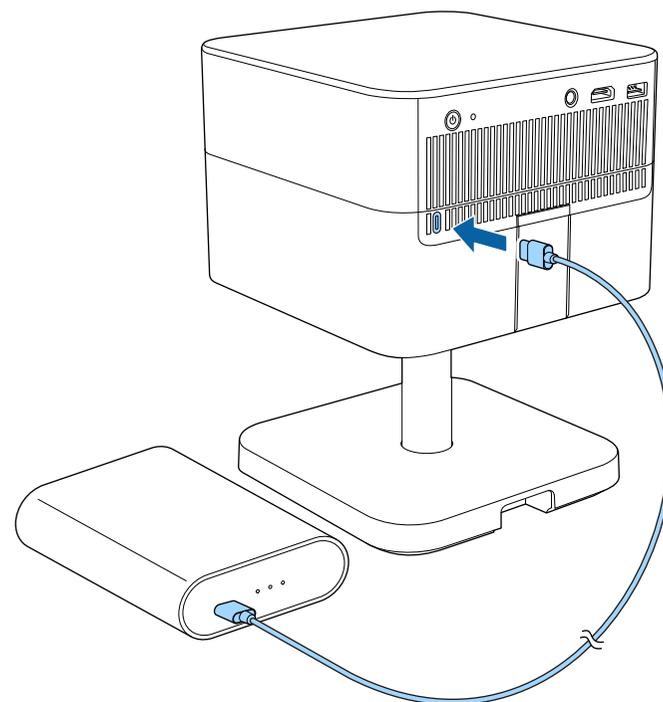
以下の条件を満たす市販のモバイルバッテリーをご用意ください。

- 出力：100W以上
- 容量：24,000mAh以上

- 1** プロジェクターとモバイルバッテリーをUSB-Cケーブルで接続します。



100Wに対応した市販のUSB-Cケーブルをお使いください。



本機はスタンバイ状態になります。スタンバイ状態は、プロジェクターに電力が供給されていて、電源が入っていない状態です。

- 2** プロジェクターまたはリモコンの電源ボタンを押して電源を入れます。  
ステータスインジケーターが白く点灯します。

## 注意

モバイルバッテリーを本機の上に置かないでください。滑り落ちて故障やけがの原因となることがあります。



- 容量が24,000mAhのモバイルバッテリーを満充電で使用した場合、常温環境下（25℃）で、約60分間の投写が可能です。
- モバイルバッテリーを使用する場合は、消費電力を抑えるため以下の制限があります。
  - 投写映像は暗くなります。
  - 本機の USB-C端子はモバイルバッテリーからの給電以外には使用できません。

使用後にプロジェクターの電源を切ります。



本機を長くお使いいただくために、使用しないときは本機の電源を切ってください。光源の寿命は、環境条件や使用状況によって異なります。投写映像の明るさは、使用時間の経過にともなって低下します。

- 1** プロジェクターまたはリモコンの電源ボタンを押します。  
光源がオフになり、ステータスインジケータが消灯します。本機はサスペンド状態になります。
- 2** 本機を搬送または保管するときは、ステータスインジケータが消灯していることを確認してから電源コードを抜いてください。

### ▶ 関連項目

- 「プロジェクターの電源を切る（ディープスタンバイ状態）」 [p.39](#)

## プロジェクターの電源を切る（ディープスタンバイ状態）

本機を使用していないとき、消費電力を抑えるには、リモコンで本機の電源を完全にオフにします。



- ディープスタンバイ状態では、サスペンド状態よりも消費電力が少なくなります。
- ただし、次回電源を入れたときの起動時間は、サスペンド状態よりも長くなります。

- 1** リモコンの電源ボタンを長押しします。

- 2** 確認画面で [OK] を選択します。  
光源がオフになり、ステータスインジケータが消灯します。本機がディープスタンバイ状態になり、消費電力が抑えられます。
- 3** 本機を搬送または保管するときは、ステータスインジケータが消灯していることを確認してから電源コードを抜いてください。

プロジェクターの設置方法によって、設置モードを変更します。

- [フロント]：机上に設置して、スクリーンの正面から投写します。
- [フロント・天吊り]：天吊り設置して、映像を上下反転して投写します。(EF-62/EF-61)
- [リア]：リアスクリーンの裏側から映像を左右反転して投写します。
- [リア・天吊り]：天吊り設置して、リアスクリーンの裏側から映像を上下左右反転して投写します。(EF-62/EF-61)

## ▶ 関連項目

- 「メニューから設置モードを変更する」 [p.40](#)
- 「プロジェクターの設置・取り付け」 [p.21](#)

---

## メニューから設置モードを変更する

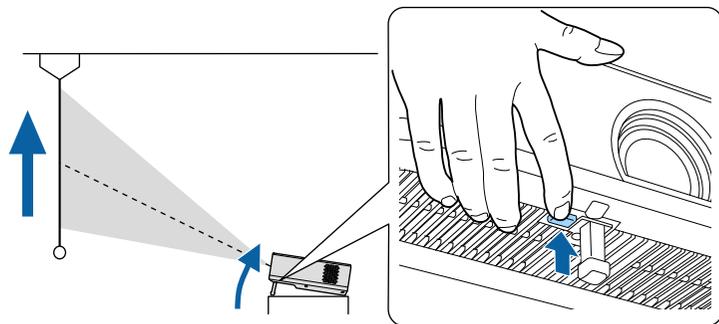
メニューから設置モードを変更して、映像を上下反転します。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの  ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 3** ダッシュボードで  を選択します。
- 4** 以下の順序でメニューを選択します。  
☛ [プロジェクター] > [詳細設定] > [設置モード]
- 5** お使いの環境に合わせた設置モードを選択して【決定】ボタンを押します。
- 6**  ボタンを押してメニューを終了します。

机などの平らな場所に置いて投写するときには、プロジェクターのフットを使って高さを調整します。

傾斜角度が大きくなると、ピントが合いにくくなります。傾斜角度が小さくなるようにプロジェクターを設置してください。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** フットレバーを押して、フロントフットを伸縮させます。



プロジェクターからフロントフットが伸びます。  
8度まで投写角度を調整できます。

- 3** フットレバーから指を離してフロントフットを固定します。

投写映像がゆがむときは、映像の形状を補正します。

### ▶▶ 関連項目

- 「映像の形状を補正する」 [p.44](#)

机などの平らな場所に置いて投写するときは、プロジェクターを上下左右に動かして、映像の位置を調整します。

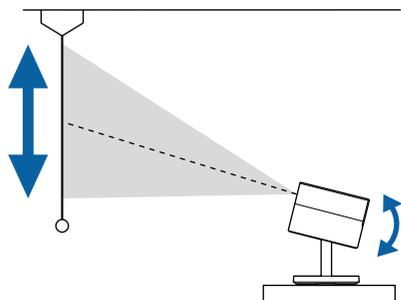
傾斜角度が大きくなると、ピントが合いにくくなります。傾斜角度が小さくなるようにプロジェクターを設置してください。

## 注意

プロジェクターを傾けたり回転させたりするときは、以下の点にご注意ください。けがの原因となるおそれがあります。

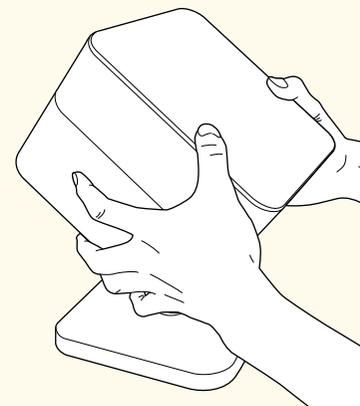
- プロジェクタースタンドの可動部や回転部に指を挟まないようご注意ください。
- ゆっくりと動かしてください。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** プロジェクターを上下に動かして、映像の高さを調整します。

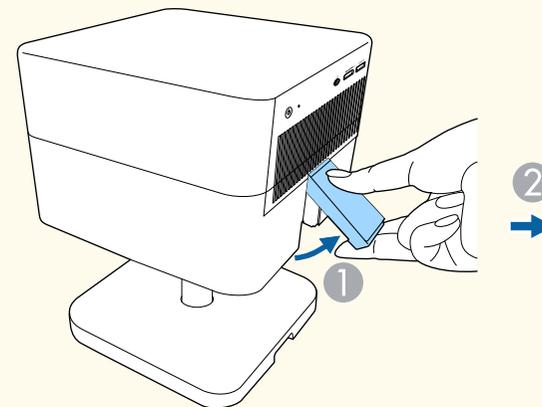


## 注意

- プロジェクターを傾けるときは、下図のように両手で両側を持ってください。

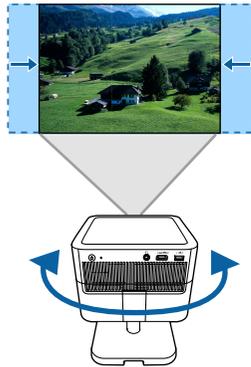


- 垂直方向に、最大-15度から+90度まで調整できます。
- プロジェクターを上向きに60度以上傾けるときは、ファブリックカバーを取り外してください。そのまま傾けると、プロジェクターやファブリックカバーを破損するおそれがあります。



- 可動範囲を超えて傾けないでください。故障の原因になります。

- 3** 映像の横位置を調整するときは、本機を左右に回転させます。



### 注意

- プロジェクターはゆっくり回転させてください。無理に回転させると故障の原因になります。
- 可動範囲を超えて回転させないでください。故障の原因になります。
- プロジェクターに接続されているケーブル類をつかんで回転させないでください。ケーブルや端子の破損の原因になります。

投写映像がゆがむときは、映像の形状を補正します。

### ▶ 関連項目

- 「映像の形状を補正する」 [p.44](#)

スクリーンの正面にプロジェクターを設置して、水平にすることで、傾きやゆがみのない映像を投写できます。スクリーンに対して斜めにプロジェクターを設置したり、上下に傾けて設置したりしたときは、映像の形状を補正します。

補正後は、映像が少し小さくなります。

投写映像の画質を維持するためには、プロジェクターの設置位置を調整して映像サイズや形状を調整することをお勧めします。

## ▶ 関連項目

- 「映像のゆがみとピントを自動的に補正する」 p.44
- 「映像のサイズと位置を調整する」 p.45
- 「フレームフィット機能で映像の形状を補正する」 p.45
- 「Quick Cornerを使用して映像の形状を補正する」 p.46

## 映像のゆがみとピントを自動的に補正する

本機を動かしたり傾けたりしたときは、[自動形状補正] 機能により、ピントのズレと映像のゆがみが自動的に補正されます。

[自動形状補正] で映像を補正できる条件は、以下のとおりです。

- 投写映像のサイズ（対角線の長さ）が30～100インチのとき
- 投写距離が約77～267 cmのとき
- 投写面に対する本機の設置角度が上下左右20°以内のとき

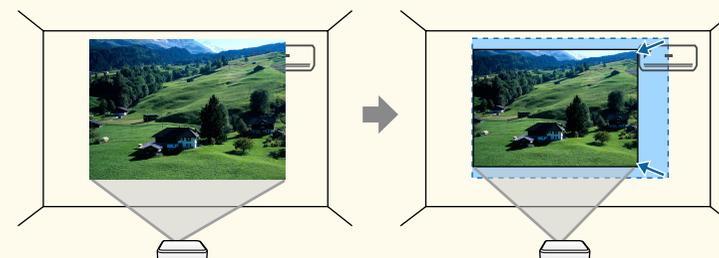


- [自動形状補正] は投写映像のサイズが100インチ以上の場合でも動作します。本機の設置角度や部屋の明るさ、スクリーンの材質などによっては映像を補正できないことがあります。必要に応じて、プロジェクターのメニューから手動で補正してください。
- [ズーム&シフト] 機能で縮小した映像を斜めに投写しているときは、ゆがみを自動的に補正できないことがあります。ゆがみを自動的に補正できないときは、縮小率を調整して、映像を等倍に近づけてください。

☛ [プロジェクター] > [台形補正] > [ズーム&シフト]



- [移動時] を [オフ] に設定しているときは、本機を動かしたり傾けたりしても [自動形状補正] は動作しません。
  - [自動形状補正] を手動で実行するには、[プロジェクター] メニューの [補正を開始] を選択します。
  - [障害物回避] を [オン] に設定すると、スクリーンの前の障害物を避けて映像を投写します。映像は小さくなります。
- ☛ [プロジェクター] > [台形補正] > [自動形状補正] > [補正を開始]
- ☛ [プロジェクター] > [台形補正] > [自動形状補正] > [障害物回避]



## ▶ 関連項目

- 「プロジェクターメニュー」 p.68

## 映像のサイズと位置を調整する

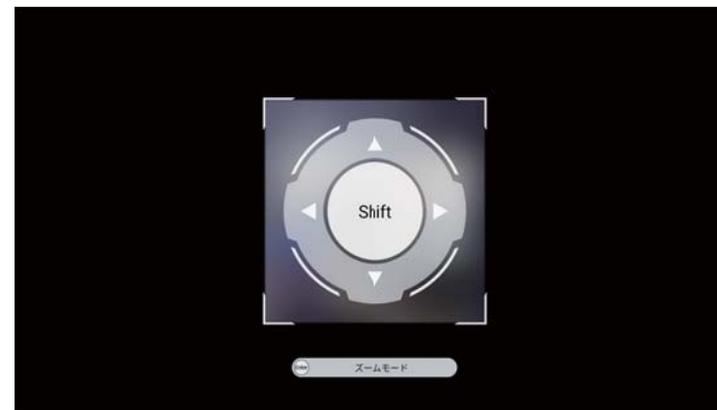
[ズーム&シフト] 機能を使って映像のサイズと位置を調整できます。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンのボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 3** ダッシュボードでを選択します。
- 4** 以下の順序でメニューを選択します。  
☛ [プロジェクター] > [台形補正] > [ズーム&シフト]  
ズーム調整画面が表示されます。



- 5** 左右ボタンで映像のサイズを調整します。

- 6** 【決定】ボタンを押します。  
[シフトモード] に切り替わり、位置調整画面が表示されます。



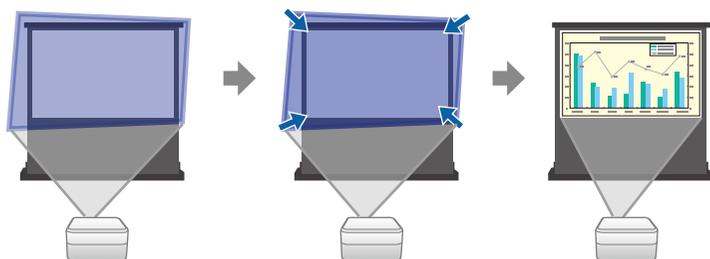
- 7** 上下左右ボタンで映像の位置を調整します。
- 8** ボタンを押してメニューを終了します。

## ▶ 関連項目

- 「プロジェクターメニュー」 p.68

## フレームフィット機能で映像の形状を補正する

[フレームフィット] 機能を使用すると、スクリーンに合わせて映像の形状と位置を自動的に補正できます。



「フレームフィット」で映像を補正できる条件は、以下のとおりです。

- スクリーンのサイズが30～100インチのとき
- 投写距離が約77～267 cmのとき
- 投写角度が上下左右約15°以内のとき
- 部屋が暗すぎないこと
- 投写面に模様がなく、本機のカメラが正常に動作していること



「フレームフィット」を使用するときは、「自動形状補正」による意図しない補正を防ぐため、「移動時」を「オフ」に設定することをお勧めします。

☛ 「プロジェクター」 > 「台形補正」 > 「自動形状補正」 > 「移動時」

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの⚙️ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 3 ダッシュボードで⚙️を選択します。
- 4 以下の順序でメニューを選択します。  
☛ 「プロジェクター」 > 「台形補正」 > 「フレームフィット」

スクリーンにメッセージが表示されます。

- 5 必要に応じて本機の位置を動かして、メッセージがスクリーンの中央に表示されるようにします。
- 6 投写エリアがスクリーン枠より大きくなるようにします。



- 必要に応じて、本機をスクリーンから遠ざけてください。
- 「フレームフィット」は投写エリア内に2辺以上の枠を検知すると、検知した枠に合わせて補正します。狭い部屋で横長のスクリーンに投写するときなど、投写エリアをスクリーン枠より大きくできないときはフレームフィットの上下の辺を投写エリア内に収めることで補正できます。



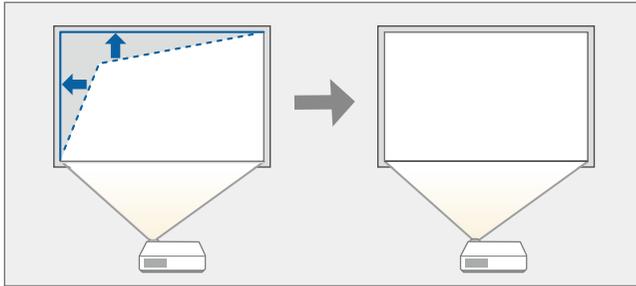
- 7 「開始」をクリックします。  
調整用の画面が表示されたら、プロジェクターを動かしたり、映像を遮ったりしないでください。入力されている映像のアスペクト比に合わせて映像が補正され、完了メッセージが表示されます。

### ▶▶ 関連項目

- 「プロジェクターメニュー」 [p.68](#)

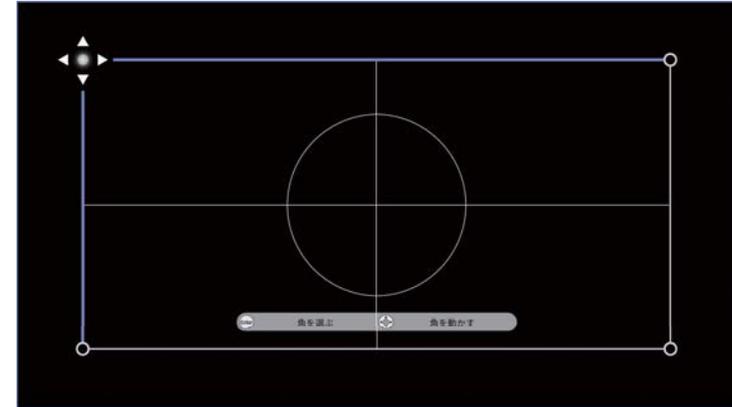
## Quick Cornerを使用して映像の形状を補正する

「Quick Corner」機能を使用して、映像のゆがみと大きさを補正します。



- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 3 ダッシュボードで  を選択します。
- 4 以下の順序でメニューを選択します。  
☛ [プロジェクター] > [台形補正] > [Quick Corner]  
[Quick Corner] 画面が表示されます。

- 5 【決定】 ボタンを押して補正するポイントを選択し、上下左右ボタンで映像の形状を調整します。



- 画面上のグレーで示される方向にはこれ以上調整できません。
- 補正した結果を初期化するには、【決定】 ボタンを長押しします。

- 6  ボタンを押してメニューを終了します。

## ▶▶ 関連項目

- 「プロジェクターメニュー」 [p.68](#)

プロジェクターのメニューを使用して、ピントのズレを補正します。

**1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。

**2** リモコンの  ボタンを押します。  
ピント調整画面が表示されます。



**3** リモコンの左右ボタンを押して、ピントを補正します。

**4**  ボタンを押してメニューを終了します。

コンピューターとDVDプレーヤーなど複数の機器をプロジェクターに接続しているときは、投写する映像を切り替えます。

- 1** 接続機器の電源が入っていることを確認します。
- 2** ビデオ機器の映像を表示するときは、DVDなどのメディアを挿入して再生します。
- 3** リモコンの  ボタンを押します。
- 4** 上下ボタンで投写したい映像を選択します。



映像が表示されないときは、本機とビデオ機器が正しく接続されていることを確認してください。

本機はさまざまな縦横比（アスペクト比）で映像を表示できます。通常は、接続機器からの入力信号によって映像のアスペクト比が決まります。映像をスクリーンに合わせるために、手動でアスペクト比を切り替えることもできます。

常に特定のアスペクト比で投写するときは、[画面] メニューでアスペクト比を設定します。



入力ソースが [HDMI 1] のときに設定できます。

## ▶ 関連項目

- 「映像のアスペクト比を切り替える」 p.50
- 「アスペクトモードの種類」 p.50

## 映像のアスペクト比を切り替える

投写する映像のアスペクト比を切り替えます。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの  ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 3** ダッシュボードで  を選択します。
- 4** 以下の順序でメニューを選択します。  
☛ [ディスプレイと音] > [画面]
- 5** 入力信号に合わせてアスペクト比を選択します。
- 6**  ボタンを押してメニューを終了します。

## アスペクトモードの種類

以下のアスペクト比を選択できます。



著作権法で保護されている映像をアスペクト機能で圧縮、引き伸ばし、分割などを行い、営利目的で公衆に視聴させた場合は、著作権者の権利を侵害するおそれがあります。

アスペクトモード	説明
スーパーズーム	映像を拡大表示します。上下左右の端が欠けます。
4:3	映像を4:3で表示します。
映画（14:9に拡大）	映像を14:9で表示します。
映画（16:9に拡大）	映像を16:9で表示します。
フル	投写エリア全体に映像を表示します。
リアル	ネイティブアスペクトで映像を表示します。

本機は、投写環境や映像の種類に応じて、明るさ、コントラスト、色を最適化するためのカラーモードを用意しています。環境や映像の種類に合ったカラーモードを選択できます。

## ▶ 関連項目

- 「カラーモードを変更する」 p.51
- 「カラーモードの種類」 p.51

## カラーモードを変更する

カラーモードを変更して、映像を最適化します。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの  ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 3** ダッシュボードで  を選択します。
- 4** 以下の順序でメニューを選択します。  
☛ [ディスプレイと音] > [ディスプレイ] > [画像モード]
- 5** お好みのカラーモードを一覧から選択します。
- 6**  ボタンを押してメニューを終了します。

## カラーモードの種類

投写環境や映像の種類に応じて、以下のカラーモードを設定できます。

カラーモード	説明
標準	明るさと鮮やかさのバランスを重視した標準的なモードです。通常は [標準] がお勧めです。
シネマ	映画などのコンテンツを楽しむのに適しています。
ビビッド	色鮮やかにさまざまなコンテンツを楽しむ場合に適しています。
ナチュラル	自然な色合いのモードです。映像の色調整を行うときは、本モードを選択することをお勧めします。

[ディスプレイ] メニューには、現在投写中の入力ソースに応じて画質を調整する設定があります。投写映像の品質と色合いを細かく調整できます。

☛ [ディスプレイと音] > [ディスプレイ]

画質の調整について詳しくは、「ディスプレイと音メニュー」を参照してください。

### ▶▶ 関連項目

- 「ディスプレイと音メニュー」 [p.69](#)

[ダイナミックコントラスト] をオンにすると、映像の明るさに合わせてプロジェクターの光量を自動的に調整することで、コントラストを改善します。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの  ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 3** ダッシュボードで  を選択します。
- 4** 以下の順序でメニューを選択します。  
☛ [ディスプレイと音] > [ディスプレイ] > [詳細設定] > [ダイナミックコントラスト]
- 5** 次のいずれかを選択します。
  - [オフ]：光量調整を行わないときに選択します。
  - [標準]：標準の光量調整を行います。
  - [高速]：シーンが切り替わったとき、すぐに光量を調整します。
- 6**  ボタンを押してメニューを終了します。

## ▶ 関連項目

- 「プロジェクターメニュー」 [p.68](#)

光源の明るさを設定します。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの☀️上下ボタンを押します。  
[光源出力] 調整画面が表示されます。
- 3** ☀️上下ボタンを押して調整します。
- 4** ⬅️ボタンを押してメニューを終了します。

音量ボタンは、プロジェクターの内蔵スピーカーの音量を調整します。プロジェクターに接続している外部スピーカーの音量を調整することもできます。

音量は接続した入力ソースごとに調整する必要があります。



プロジェクターに接続されているAV機器の音量を調整するときは、メニューで [グローバルなCECコントロール] を [オン] に設定します。

☛ [チャンネルと入力] > [入力] > [グローバルなCECコントロール]

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  上下ボタンを押して、音量を調整します。  
音量調節画面が表示されます。

## 注意

初めから音量を上げすぎないでください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。

電源を切る前に音量を下げておき、電源を入れた後で徐々に上げてください。

本機は、投写映像の種類に応じて、音声を最適化するためのサウンドモードを用意しています。

映像の種類や投写環境に合ったサウンドを選択できます。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 3 ダッシュボードで  を選択します。
- 4 以下の順序でメニューを選択します。  
☛ [ディスプレイと音] > [音] > [サウンドモード]
- 5 お好みのサウンドモードを選択します。
- 6  ボタンを押してメニューを終了します。

## ▶ 関連項目

- 「サウンドモードの種類」 [p.56](#)

サウンドモード	説明
ミュージック	音楽に適しています。低音、高音がクリアに再生されます。
標準	すべての映像に適したサウンドモードです。

## サウンドモードの種類

投写している映像の種類に応じて、以下のサウンドモードを設定できます。

サウンドモード	説明
シネマ	映画を楽しむのに適しています。低音、高音が強調されます。
ニュース	ボーカルやせりふを聴きやすくします。

# プロジェクターの便利な機能

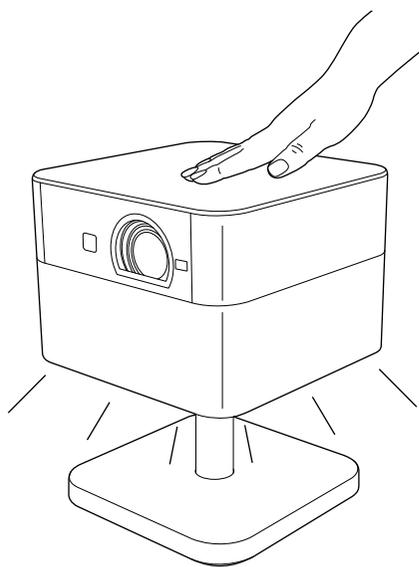
プロジェクターの各機能を使用します。

## ▶ 関連項目

- 「照明機能を使用する（アンビエントライト）（EF-72）」 [p.58](#)
- 「プロジェクターをBluetooth®スピーカーとして使用する」 [p.59](#)
- 「映像を一時的に停止する」 [p.60](#)
- 「Google Cast™を使用する」 [p.61](#)
- 「HDMI CEC機能」 [p.62](#)
- 「Epson Projector Updateでファームウェアを更新する」 [p.63](#)
- 「プロジェクターを初期化する」 [p.64](#)

本機は環境照明としても使用することができます。部屋の雰囲気や状況に合わせて、照明の色や明るさを調整できます。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 本機天面の中央に触れます。



底面の照明が点灯します。

- 3 天面に触れるたびに照明の明るさが変わります。
- 4 天面を長押しすると、照明の色や点灯パターンなどのモードを切り替えることができます。



- メニューで照明の設定を変更できます。  
☛ [プロジェクター] > [アンビエントライト]

## ▶ 関連項目

- 「スタンバイ状態でアンビエントライトを使用する」 p.58

## スタンバイ状態でアンビエントライトを使用する

本機がスタンバイ状態のときでも、環境照明を使用できます。

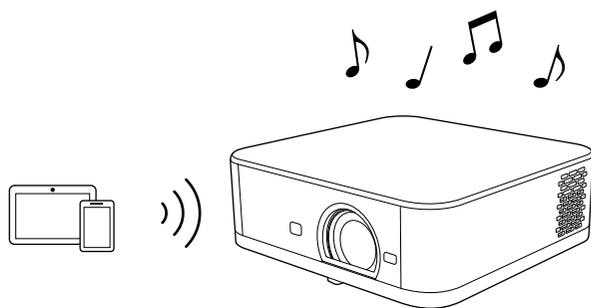
- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの $\odot$ ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 3 ダッシュボードで $\odot$ を選択します。
- 4 以下の順序でメニューを選択します。  
☛ [システム] > [電源と節電設定]
- 5 [エネルギーモード] を [最適化済み] または [増加] に設定し、  
【決定】 ボタンを押します。



[エネルギーモード] はGoogleアカウントでログインしているときのみ表示されます。

- 6  $\leftarrow$  ボタンを押してメニューを終了します。

Bluetoothで接続したオーディオ機器から、本機のスピーカーに音声を出力できます。



- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの⚙️ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 3 ダッシュボードで⚙️を選択します。
- 4 以下の順序でメニューを選択します。  
☛ [プロジェクター] > [Bluetoothスピーカーモード]  
[Bluetoothスピーカーモード] 画面が表示されます。
- 5 接続するオーディオ機器のBluetooth機能をオンにして、機器の一覧からプロジェクター名（本機）を選択します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。



- [デバイス名] メニューでプロジェクターの名前を確認、変更できます。  
☛ [システム] > [デバイス情報] > [デバイス名]
- Bluetooth接続を切断するときは、接続機器のメニューから切断してください。

Bluetooth接続が確立して10秒経過すると、投写映像が消えます。

- 6 ⬅️を押して [Bluetoothスピーカーモード] を終了します。



- Bluetooth接続したオーディオ機器で再生される音声には遅延が生じます。
- Bluetoothで複数のオーディオ機器を同時に接続することはできません。
- Bluetooth対応のスピーカーやヘッドフォンを接続して、本機の音声をこれらの機器に出力することもできます。以下の順序でメニューを選択し、画面の指示に従ってペアリングしてください。  
☛ [リモコンとアクセサリ] > [アクセサリのペア設定]
- Bluetoothオーディオ機器は一部の国と地域では使用できません。

投写中の映像を一時的に停止します。



- 1** リモコンの⚙️ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 2** ダッシュボードで⚙️を選択します。
- 3** 以下の順序でメニューを選択します。  
☛ [ディスプレイと音] > [ディスプレイ] > [詳細設定]
- 4** [画像OFF] を選択して映像を停止します。
- 5** 映像を再開するときは、⏪ボタンを押します。

## ▶ 関連項目

- 「ディスプレイと音メニュー」 [p.69](#)

Google Cast を使用すると、スマートフォン、タブレット、ノートパソコンのお好きなアプリから、プロジェクターにコンテンツをストリーミング配信できます。

- 1** お使いの機器またはコンピューターを、本機と同じ無線LANネットワークに接続します。
- 2** Google Cast 対応のアプリを開き、を選択します。
- 3** デバイスの一覧から、本機を選択してください。



[デバイス名] メニューでプロジェクターの名前を確認、変更できます。

☞ [システム] > [デバイス情報] > [デバイス名]

アプリが接続されて、プロジェクターへのキャストを開始します。

- 4** キャストを終了するには、アプリのを選択して、切断を選択します。

本機のHDMI端子にHDMI CEC規格に対応したAV機器を接続すると、接続機器同士の連携動作が本機のリモコンで操作できます。

#### ▶ 関連項目

- 「HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する」 p.62

## HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する

HDMI CEC機能を使って、接続したオーディオ機器を本機のリモコンで操作します。



- 接続機器側の設定も必要です。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI CEC規格に対応していても動作しない接続機器や、動作しない機能があります。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- ケーブルがHDMIの規格に対応していないと動作しません。

**1** リモコンの  ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。

**2** ダッシュボードで  を選択します。

**3** 以下の順序でメニューを選択します。

☛ [チャンネルと入力] > [入力] > [グローバルなCECコントロール]

**4** [グローバルなCECコントロール] をオンにします。

**5** 必要に応じて、以下の項目を設定します。

- [接続されたデバイスをテレビでOFFにすることを許可]：本機の電源オフに連動して、接続機器の電源を切るときはオンに設定します。
- [接続されたデバイスでテレビをONにすることを許可する]：接続機器の電源オンに連動して、本機の電源を入れるときはオンに設定します。

**6**  ボタンを押してメニューを終了します。

本機のリモコンを使って接続機器の再生、停止、音量調整などの操作ができます。

#### ▶ 関連項目

- 「チャンネルと入力メニュー」 p.67

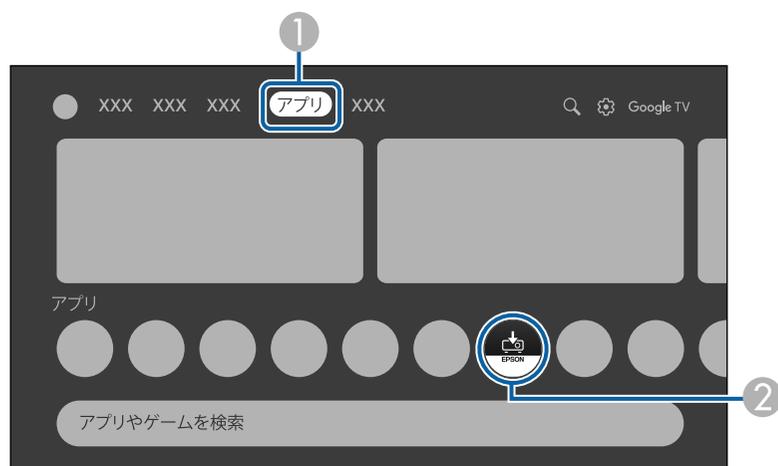
Epson Projector Updateアプリを使って、プロジェクターファームウェアを最新の状態に更新できます。



- Epson Projector Updateがインストールされていないときは、ホーム画面からインストールします。必ずアプリをインストールして、最新のファームウェアに更新してください。
- 最新のプロジェクターファームウェアが利用可能な場合は、ホーム画面に通知が表示されます。画面の指示に従って、ファームウェアを更新します。
- 内部ストレージの空き容量が不足すると、システムアップデートに失敗することがあります。不要なアプリやキャッシュを削除し、ストレージの空き容量を増やしてから、再度アップデートをお試しください。

**1** リモコンの🏠ボタンを押します。

**2** [アプリ] を選択し、アプリの一覧から [Epson Projector Update] を選択して起動します。



**3** 画面の指示に従って、ファームウェアを更新します。

## 注意

ファームウェアの更新中は、本機を操作したり、本機の電源を切ったりしないでください。

## ▶▶ 関連項目

- 「Epson Projector Updateをインストールする」 [p.33](#)

本機のすべての設定を初期化することができます。



初期化を行うと、インストールされているアプリ、Googleアカウント情報、プロジェクターのメニュー設定内容などはすべて消去されます。消去したくない情報はメモしておくことをお勧めします。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの  ボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 3** ダッシュボードで  を選択します。
- 4** 以下の順序でメニューを選択します。  
☛ [システム] > [デバイス情報] > [リセット] > [出荷時設定にリセット]
- 5** 画面の指示に従って、初期化を開始します。

## ▶ 関連項目

- 「システムメニュー」 [p.71](#)

# メニューの設定

プロジェクターメニューの機能と設定について説明します。

## ▶ 関連項目

- 「プロジェクターメニューを操作する」 [p.66](#)
- 「チャンネルと入力メニュー」 [p.67](#)
- 「プロジェクターメニュー」 [p.68](#)
- 「ディスプレイと音メニュー」 [p.69](#)
- 「その他のメニュー」 [p.71](#)

投写画面に表示されるメニューを使って、本機の各種動作を設定します。

- 1** リモコンのボタンを押して、ダッシュボードを表示します。
- 2** ダッシュボードでを選択します。
- 3** 上下ボタンを押して、メニュー項目を選択します。
- 4** 設定を変更するには、【決定】ボタンを押します。
- 5** 上下左右ボタンを押して、設定項目を選択します。
- 6** 上下左右ボタンを押して、設定を変更します。
- 7** メニューの設定が終わったら、ボタンを押します。
- 8** ボタンを押してメニューを終了します。

[チャンネルと入力] メニューでは、お使いのオーディオ機器、映像機器に関する設定ができます。

▶ 関連項目

- 「HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する」 [p.62](#)

設定	選択肢	説明
チャンネルと入力	入力の切り替え	[ホーム] と [HDMI 1] 端子の映像を切り替えます。
	HDMI 1	[この入力を表示]：入力ソースの一覧に [HDMI 1] を表示するかどうかを設定します。 [PINのロック]：この設定を有効にすると、入力ソースを [HDMI 1] に切り替えるときに、プロジェクターの HDMI端子に接続されている機器のPINコードが必要になります。 [名前の編集]：本機のHDMI端子に接続したオーディオ機器名、映像機器名として表示したい名称を選択します。 [信号なしのスタンバイタイムアウト]：[HDMI 1] の入力信号がないときに、本機がスタンバイ状態になるまでの時間を設定します。 [HDMI EDIDバージョン]：EDIDのバージョンを表示します。(EF-72/EF-62)
	グローバルなCECコントロール	[オン] に設定すると、本機のリモコンから接続機器を操作できます。
	接続されたデバイスをテレビでOFFにすることを許可	[オン] に設定すると、本機の電源オフに連動して、接続機器の電源をオフにします。
	接続されたデバイスでテレビをONにすることを許可する	[オン] に設定すると、接続機器の電源を入れたときや、接続機器で再生を開始したときに、本機の電源をオンにします。

[プロジェクター] メニューでは、映像の表示に関する設定ができます。

設定	選択肢	説明
フォーカス	—	投写映像のピントを調整します。
台形補正	自動形状補正	映像の縦横のゆがみを自動的に補正します。
	フレームフィット	映像の形状と位置を、スクリーンに合わせて自動的に補正します。
	Quick Corner	投写画面のコーナーの形状を個別に補正します。
	ズーム&シフト	映像のサイズと位置を調整します。
	初期値に戻す	[台形補正] メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。
アンビエントライト (EF-72)	ライト	本機のライトを点灯させるには、[オン] を選択します。
	ウェルカムライト	[オン] に設定すると、本機の電源を入れたときにライトが点灯します。
	タッチセンサー	[オン] に設定すると、本機の天面に触れたときにライトが点灯します。
	初期値に戻す	[アンビエントライト] メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。
詳細設定	スマートアイプロテクション	[オン] に設定すると [スマートアイプロテクション] を有効にします。 投写エリア周辺に障害物を検知すると、自動的に光源の明るさを落として、まぶしさを低減します。
	設置モード	映像が正しい方向で投写されるように、スクリーンに対する本機の設置方法を選択します。

設定	選択肢	説明
	壁色補正	[補正を開始]：投写映像の色を、投写面の色に合わせて調整します。 [有効化]：[オン] に設定すると [壁色補正] を有効にします。
Bluetoothスピーカーモード	—	[Bluetoothスピーカーモード] に切り替えます。

## ▶▶ 関連項目

- 「映像のゆがみとピントを自動的に補正する」 [p.44](#)
- 「映像のサイズと位置を調整する」 [p.45](#)
- 「フレームフィット機能で映像の形状を補正する」 [p.45](#)
- 「Quick Cornerを使用して映像の形状を補正する」 [p.46](#)

[ディスプレイと音] メニューでは、投写映像の画質と音質を調整できます。

設定	選択肢	説明
ディスプレイ	画像モード	一覧からお好みのカラーモードを選択します。
	光源出力	光源の明るさを設定します。 使用する環境の温度が高いなどの理由で光源の明るさが低下している場合は、明るさを調整することはできません。
	明るさ	映像の明るさを調整します。
	コントラスト	映像のコントラストを調整します。
	彩度	映像の鮮やかさを調整します。
	色合い	映像の色合いを調整します。
	シャープネス	映像のシャープ感を調整します。
	詳細設定	詳細は下表をご覧ください。
	デフォルトに戻す	[ディスプレイ] メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。
画面	アスペクトモードの種類を参照	映像のアスペクト比（縦横比）を設定します。（入力ソースがHDMIのときのみ設定できます。）
音	サウンドモード	再生するコンテンツの内容に適したサウンドモードを選択します。
	デフォルトに戻す	[音] メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。
オーディオ出力	デジタル出力	外部のオーディオ機器に音声を出力するときの出力形式を選択します。

設定	選択肢	説明
	デジタル出力の遅延	映像と音声のずれを補正します。音声が早いときは、値を高くします。

## 詳細設定

設定	説明
画像OFF	投写中の映像を停止します。
色温度	選択したカラーモードに応じて色温度を設定します。
DNR	映像のざらつきを抑えます。
映像優先設定	映像を投写するとき明るさと色合いのどちらを優先するかを切り替えます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [きれい]：色合いを優先します。</li> <li>・ [明るい]：明るさを優先します。</li> </ul>
ダイナミックコントラスト	映像の明るさに合わせて投写時の光量を調整します。
シーン適応ガンマ補正	シーンに応じて階調表現を最適化し、メリハリのある映像にします。値が大きいほど、明暗差がより強調されます。
ダイナミックカラーブースター	シーンに応じて彩度を自動で調整し、投写映像を鮮やかにします。
ガンマ	映像の発色を調整します。
ゲームモード	ゲームなどの動きの速い投写映像に対して、応答速度を向上させる処理をします。以下の場合にのみ表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [ALLM] が [オフ] のとき</li> <li>・ [フレーム補間] が [オフ] のとき</li> </ul>

設定	説明
ALLM	投写コンテンツに応じて応答速度を自動で調整します。入力ソースが [HDMI] のときに利用可能な設定です。
HDMI RGBレンジ	HDMI端子に接続された機器の設定に合わせて、本機のビデオレベルを設定します。
MPEG NR	MPEG形式の映像のざらつきを抑えます。
ローカルコントラストの制御	投写映像のコントラストを強調します。
肌の色調整	映像の肌の色のトーンを明るくします。
PCモード	映像信号の色情報を保持したまま投写するには、[オン]を選択してください。入力ソースが [HDMI] のときに利用可能な設定です。
フレーム補間	映像の動きの滑らかさを調整します。以下の場合にのみ表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ゲームモード] が [オフ] のとき</li> <li>• [PCモード] が [オフ] のとき</li> </ul>
ブルーライト低減	投写映像のブルーライトを低減します。
カラーチューナー	[カラーチューナー] を有効にするには、[有効にする] を [オン] に設定してください。 [色合い]、[彩度]、[明るさ] の各設定で、R (赤)、G (緑)、B (青)、C (シアン)、M (マゼンタ)、Y (黄)、および [肌の色トーン] を個別に調整します。 オフセット、ゲインをR (赤)、G (緑)、B (青) の成分ごとに調整します。

- 「アスペクトモードの種類」 p.50

#### ▶▶ 関連項目

- 「カラーモードを変更する」 p.51
- 「映像を最適化する (詳細設定)」 p.52
- 「サウンドモードを切り替える」 p.56

その他のメニューでは、本機に関するさまざまな設定ができます。

▶ **関連項目**

- 「ネットワークとインターネットメニュー」 [p.71](#)
- 「アカウントとプロフィールメニュー」 [p.71](#)
- 「プライバシーメニュー」 [p.71](#)
- 「アプリメニュー」 [p.71](#)
- 「システムメニュー」 [p.71](#)
- 「ユーザー補助メニュー」 [p.72](#)
- 「リモコンとアクセサリメニュー」 [p.72](#)
- 「ヘルプとフィードバックメニュー」 [p.72](#)

## ネットワークとインターネットメニュー

[ネットワークとインターネット] メニューでは、ネットワーク情報の表示、ネットワーク経由で本機を使うための設定ができます。

## アカウントとプロフィールメニュー

[アカウントとプロフィール] メニューでは、プロジェクターにログインするための、Googleアカウントの追加や設定ができます。

## プライバシーメニュー

[プライバシー] メニューでは、プライバシーとセキュリティに関する設定ができます。

## アプリメニュー

[アプリ] メニューには、最近使用したアプリや、プロジェクターにインストールされたすべてのアプリが表示されます。

## システムメニュー

[システム] メニューでは、プロジェクターの各種設定ができます。

設定	説明
背景モードのスクリーンセーバー	スクリーンセーバーの設定をします。
電源と節電設定	電源と省エネに関する設定をします。
デバイス情報	本機の状態を表示します。 このメニューから、本機を初期化できます。
日付と時刻	本機の日付と時刻を設定します。
言語	メニュー、メッセージに表示する言語を選択します。
キーボード	本機のメニューで使用する仮想キーボードの設定をします。
ストレージ	内部ストレージの使用状況を表示したり、キャッシュをクリアしたりできます。
キャスト	キャスト機能をオン/オフします。
システム音	システム音をオン/オフします。
再起動	本機を再起動します。

▶ **関連項目**

- 「プロジェクターを初期化する」 [p.64](#)
- 「映像を一時的に停止する」 [p.60](#)

---

### ユーザー補助メニュー

[ユーザー補助] メニューでは、字幕やテキスト読み上げなど、アクセシビリティに関する設定ができます。

---

### リモコンとアクセサリメニュー

[リモコンとアクセサリ] メニューでは、リモコンのペアリングや、Bluetooth機器の接続設定ができます。

---

### ヘルプとフィードバックメニュー

[ヘルプとフィードバック] メニューには、プロジェクターのヘルプページへのリンクが含まれており、製品に関するご意見やご感想を送信できます。

# プロジェクターをメンテナンスする

プロジェクターのメンテナンス方法について説明します。

## ▶ 関連項目

- 「プロジェクターのメンテナンス」 [p.74](#)
- 「レンズを清掃する」 [p.75](#)
- 「本機を清掃する」 [p.76](#)
- 「エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする」 [p.77](#)

プロジェクターのレンズは定期的に掃除する必要があります。また、エアフィルターや吸排気口も掃除して、本機の内部温度が上昇しないようにしてください。

交換が必要な部品は、リモコンの電池のみです。他の部品を交換する必要があるときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

### 警告

掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてから行ってください。また、取扱説明書で指示している場合を除き、本機のケースを開けないでください。内部には電圧の高い部分が多くあり、火災・感電・事故の原因となります。

プロジェクターのレンズは定期的に掃除し、表面に付着したホコリや汚れに気付いたときにも掃除してください。

- レンズのホコリや汚れは、清潔で乾いた市販のメガネ拭きなどで軽く拭き取ってください。
- ホコリやゴミが多いときは、ブロアーで取り除いてからレンズを拭いてください。

## 警告

- レンズを掃除するときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてから行ってください。
- レンズに付着したゴミ・ホコリの除去にエアダスターなどの可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機の内部は高温になっているため、引火による火災の原因となります。

## 注意

- 光源消灯後すぐにレンズを拭かないでください。レンズが傷つく原因になります。
- レンズの表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。

本機の掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてください。

- 本機のコリや汚れは柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布をひたしてかたくしぼり、軽くふき取ってから乾いた布で仕上げてください。本機に液体を直接スプレーしないでください。

### 注意

ワックス、ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使わないでください。本機のケースが変質、変色することがあります。また、エアダスターも使用しないでください。

エアフィルターは定期的にメンテナンスしてください。プロジェクターの内部温度が高くなっていることを示すメッセージが表示されたら、エアフィルターを掃除してください。一年に一度は掃除することをお勧めします。ホコリの多い環境でお使いの場合は、より短い周期で掃除してください。(大気中に含まれる粒子物質が0.04~0.2mg/m<sup>3</sup>の環境下での使用を想定しています。)

## ▶ 関連項目

- 「エアフィルターと吸気口を清掃する」 [p.77](#)

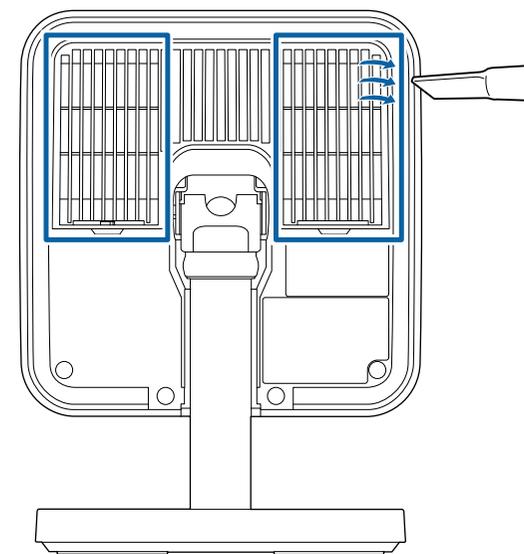
## エアフィルターと吸気口を清掃する

以下の場合には、エアフィルターや吸気口を清掃してください。

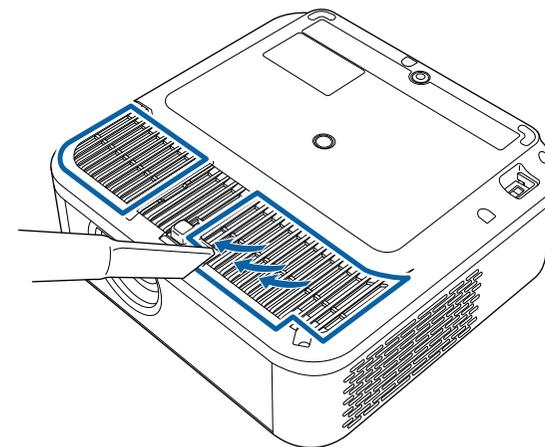
- エアフィルターや吸気口が汚れたとき
- ステータスインジケータが橙色に点灯したとき

- 1** 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。
- 2** コンピューター用の小型掃除機か、柔らかいブラシでホコリを丁寧に取り除きます。

EF-72/EF-71



EF-62/EF-61



### 注意

- エアダスターは使用しないでください。可燃性の物質が残留したり、精密部分にホコリが入り込むおそれがあります。
- ホコリを取り除くことができない場合や、エアフィルターが破損している場合は、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談の上、新しいエアフィルターと交換してください。

# 困ったときに

想定されるトラブルと、その対処方法について説明します。

## ▶ 関連項目

- 「トラブルの対処方法」 [p.80](#)
- 「インジケータの見方」 [p.81](#)
- 「電源に関するトラブル」 [p.83](#)
- 「映像に関するトラブル」 [p.84](#)
- 「音声に関するトラブル」 [p.89](#)
- 「リモコン操作に関するトラブル」 [p.91](#)
- 「HDMI CECに関するトラブル」 [p.92](#)
- 「Wi-Fiネットワークに関するトラブル」 [p.93](#)
- 「コンテンツの視聴に関するトラブル」 [p.94](#)

プロジェクターが正しく動作しないときは、一度電源を切り、電源コードを差し直してから再度電源を入れます。

問題が解決しないときは、以下を確認します。

- インジケーターで本機の状態を確認する。
- 本書のトラブル一覧で対処方法を確認する。

問題が解決しないときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。



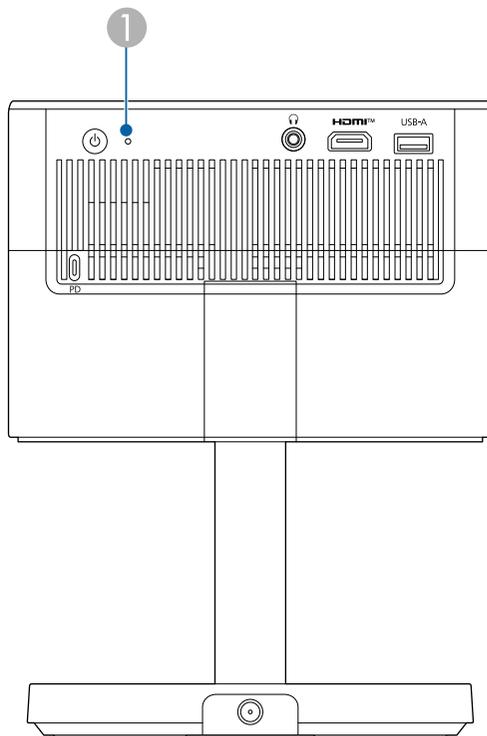
本機を修理に出された場合、初期化してお返すことがあります。各種オンラインサービスのアカウント情報を必ずお控えの上、修理をご依頼ください。

インジケータは、本機の状態をお知らせします。インジケータの色と状態を確認し、以下の表から対処方法を確認してください。

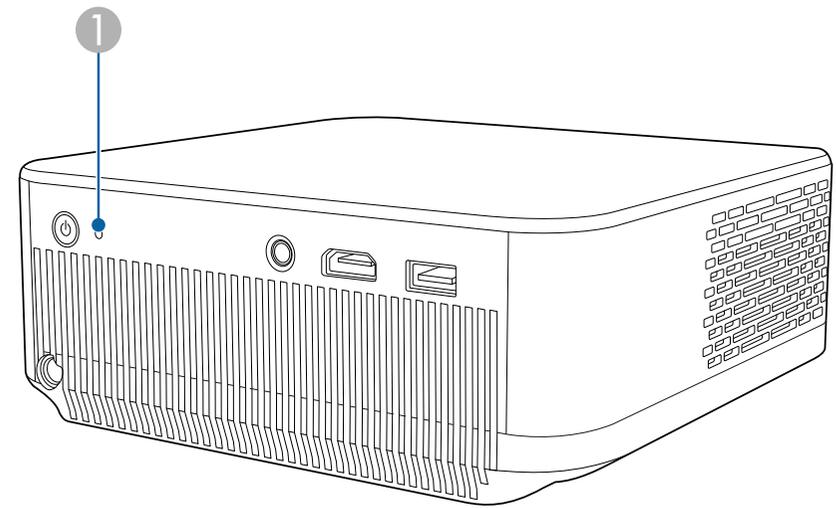


各インジケータがこの表にない状態のときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

## EF-72/EF-71



## EF-62/EF-61



### ① ステータスインジケータ

#### プロジェクターの状態

インジケータの状態	状態と対処方法
白点灯	投写中の状態です。
白点滅	ウォームアップ中、プロジェクターファームウェア更新中です。 白点滅中は、リモコン操作ができないことがあります。
消灯	スタンバイ状態です。 電源ボタンを押すと、投写を開始します。

インジケータの状態	状態と対処方法
橙点灯	<p>内部高温異常（オーバーヒート）状態です。自動的に消灯し、投写できなくなります。電源を切った状態で5分間待ち、温度を下げます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• エアフィルターや排気口がふさがれていないか、周辺の物や壁で通気が妨げられていないか確認します。</li><li>• 高温にならない環境で使用するようにします。</li><li>• エアフィルターを掃除します。</li><li>• 問題が解決しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。</li></ul>
橙点滅	<p>内部異常状態です。</p> <p>ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。</p>

## ▶▶ 関連項目

- 「エアフィルターと吸気口を清掃する」 [p.77](#)

電源に関するトラブルの対処方法を確認してください。

## ▶ 関連項目

- 「電源が入らない」 [p.83](#)
- 「予期せず電源が切れる」 [p.83](#)

## 電源が入らない

電源ボタンを押しても本機の電源が入らないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 電源コードと本機、コンセント、ACアダプターが確実に接続されていることを確認します。
- 2** リモコンの電池を確認します。
- 3** 電源コードまたはACアダプターが故障している可能性があります。電源コードを抜いて、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

## ▶ 関連項目

- 「プロジェクターの電源を入れる」 [p.35](#)
- 「リモコンに電池を取り付ける」 [p.29](#)

## 予期せず電源が切れる

本機の光源が予期せず消えるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** [電源と節電設定] メニューの [シャットダウンタイマー] で設定した時間が経過したため、本機の電源がオフになっている可能性があります。プロジェクターまたはリモコンの電源ボタンを押して、電源を入れます。

☛ [システム] > [電源と節電設定] > [シャットダウンタイマー]

- 2** 入力ソースをHDMIに切り替えた後、[信号なしのスタンバイタイムアウト] で設定した時間が経過しても入力信号が検出されないと、自動的にスタンバイモードに移行します。スタンバイモードから復帰するには、電源ボタンを押してください。

☛ [チャンネルと入力] > [入力] > [HDMI 1] > [信号なしのスタンバイタイムアウト]

- 3** ステータスインジケータが橙色に点灯しているときは、本機の内部高温異常（オーバーヒート）で電源がオフになっています。



プロジェクターの設定によって、スタンバイ状態でもファンが回転することがあります。また、スタンバイ状態から電源をオンにしたときに、ファンが大きな音を立てて回転することがありますが、異常ではありません。

## ▶ 関連項目

- 「システムメニュー」 [p.71](#)

投写映像に関するトラブルの対処方法を確認してください。

## ▶ 関連項目

- 「映像が表示されない」 [p.84](#)
- 「映像がゆがむ」 [p.85](#)
- 「映像がぼやける」 [p.85](#)
- 「映像の一部が表示されない」 [p.86](#)
- 「映像にノイズが入る、乱れる」 [p.86](#)
- 「映像の明るさや色合いが違う」 [p.87](#)
- 「映像が上下反転して表示される」 [p.87](#)
- 「自動形状補正で映像を補正できない」 [p.87](#)

## 映像が表示されない

映像が表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 本機の状態を確認します。
  - インジケーターの色と状態を確認します。
  - スタンバイ状態から復帰するには、本機の電源ボタンを押します。
    - ☛ [システム] > [電源と節電設定] > [シャットダウンタイマー]
    - ☛ [チャンネルと入力] > [入力] > [HDMI 1] > [信号なしのスタンバイタイムアウト]
- 2** ケーブルの接続を確認します。
  - 必要なケーブルがすべて接続されていること、本機の電源が入っていることを確認します。
  - 本機とビデオ機器を直接接続してください。
  - HDMIケーブルが長いときは、短いケーブルで接続します。

HDMIケーブルの長さは5m以下のものを推奨します。5メートルを超えるHDMIケーブルを使用すると、信号が劣化し、映像や音声不安定になるおそれがあります。

- 4K 60Hz 4:4:4などの18 Gbps伝送帯域の信号を投写するときは、プレミアムハイスピードのHDMIケーブルをお使いください。

- 3** ビデオ機器の状態を確認します。
  - ビデオ機器の電源が入っていることを確認し、再生ボタンを押してコンテンツを再生してみます。
  - 接続機器がHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
  - ノートパソコンから投写するときは、コンピューターの画面出力を切り替えて、プロジェクターに映像を表示します。
- 4** 次の点を確認します。
  - オンラインコンテンツを視聴する際は、インターネットへの接続が必要です。Wi-Fiサービスを利用できるか確認してください。
  - 本機、および接続されたビデオ機器の電源を一度切ってから、再度電源を入れます。
  - ビデオ機器のCEC電源連動機能を有効にして、電源を入れ直します。
  - コンピューターのディスプレイ解像度が本機の対応解像度、周波数と合っているか確認します。必要に応じて、コンピューターのディスプレイ解像度を変更します。（詳しくはお使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。）
  - 本機のすべての設定を初期化します。

## ▶ 関連項目

- 「システムメニュー」 [p.71](#)

## 映像がゆがむ

投写画面がゆがむときは、次の対処方法を確認してください。

- 1 投写面に対してプロジェクターを平行に設置します。
- 2 [プロジェクター] メニューで、[シャットダウンからの電源オン時] と [移動時] が [オン] に設定されていることを確認してください。
  - ☛ [プロジェクター] > [台形補正] > [自動形状補正] > [シャットダウンからの電源オン時]
  - ☛ [プロジェクター] > [台形補正] > [自動形状補正] > [移動時]
- 3 [自動形状補正] メニューの [補正を開始] を選択して、[自動形状補正] を実行します。
  - ☛ [プロジェクター] > [台形補正] > [自動形状補正] > [補正を開始]
- 4 スクリーンに投写しているときは、[フレームフィット] で映像の形状と位置をスクリーンに合わせて自動補正します。
  - ☛ [プロジェクター] > [台形補正] > [フレームフィット]



スクリーンに投写するときは、投写映像の形状を補正するために [フレームフィット] の使用をお勧めします。[自動形状補正] による意図しない補正を防ぐため、[移動時] を [オフ] に設定することをお勧めします。

☛ [プロジェクター] > [台形補正] > [自動形状補正] > [移動時]

- 5 [プロジェクター] メニューの [Quick Corner] で、映像のゆがみを補正します。

☛ [プロジェクター] > [台形補正] > [Quick Corner]

### ▶ 関連項目

- 「プロジェクターメニュー」 [p.68](#)

## 映像がぼやける

投写映像がぼやけるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1 リモコンの  ボタンを押して、ピント調整画面でピントを調整します。
- 2 次の点を確認します。
  - 投写距離の推奨範囲内に設置します。
  - 映像の高さ調整のために本機の傾斜角度を大きくすると映像がゆがみます。傾斜角度を小さくして台形補正の調整値を小さくします。
- 3 本機のレンズを掃除します。



寒い場所から暖かい場所に持ち込んだときは、レンズの表面が結露して映像がぼやけることがあります。お使いになる1時間くらい前に本機を設置するようにします。

- 4 [ディスプレイと音] メニューで [シャープネス] を調整して、投写映像の画質を上げます。

☛ [ディスプレイと音] > [ディスプレイ] > [シャープネス]

- 5** コンピューターから映像を投写しているときは、解像度を下げるか、本機の解像度に合わせて解像度を変更します。

▶ 関連項目

- 「ディスプレイと音メニュー」 p.69

## 映像の一部が表示されない

映像が部分的にしか表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** [プロジェクター] メニューの [ズーム&シフト] で、映像の位置を調整します。  
☛ [プロジェクター] > [台形補正] > [ズーム&シフト]
- 2** [画面] メニューで、入力ソースに合わせて適切なアスペクト比を選択します。(入力ソースがHDMIのときのみ)  
☛ [ディスプレイと音] > [画面]
- 3** 正しい設置モードを選択していることを確認します。[設置モード] メニューから選択できます。  
☛ [プロジェクター] > [詳細設定] > [設置モード]
- 4** コンピューターのディスプレイ設定でデュアルディスプレイが無効になっているか、本機の対応解像度に合った設定がされているか確認します。(詳しくはお使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。)

▶ 関連項目

- 「プロジェクターメニュー」 p.68
- 「ディスプレイと音メニュー」 p.69

## 映像にノイズが入る、乱れる

投写映像に電子的な干渉（ノイズ）や妨害が入るときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 本機とビデオ機器を接続しているケーブルの状態を確認します。ケーブルが以下の状態であることを確認してください。
  - 干渉を受けないように、電源コードから離れている
  - ケーブルの両端が確実に接続されている
  - 延長ケーブルを使用していない
- 2** メニューの [DNR] を調整します。  
☛ [ディスプレイと音] > [ディスプレイ] > [詳細設定] > [DNR]
- 3** 映像のゆがみを補正したときは、[ディスプレイと音] メニューで [シャープネス] を低い値に設定して、投写映像の画質を向上させます。  
☛ [ディスプレイと音] > [ディスプレイ] > [シャープネス]
- 4** 延長ケーブルを使用して電源に接続しているときは、延長ケーブルを使わずに投写して、映像にノイズが入らないか確認します。
- 5** コンピューターのディスプレイ解像度やリフレッシュレートが本機の対応解像度、リフレッシュレートと合っているか確認します。
- 6** eARC/ARC非対応のAVアンプをHDMI端子に接続すると、映像が乱れることがあります。

▶ 関連項目

- 「ディスプレイと音メニュー」 p.69

## 映像の明るさや色合いが違う

投写映像が暗すぎるとき、明るすぎるとき、また色合いが正しく表示されないときは、次の対処方法を確認してください。



USB-C端子から電源を供給しているときは、消費電力を抑えるため投写映像は暗くなります。

- 1** [画像モード] メニューのカラーモードで、映像と投写環境に合うカラーモードを選択します。  
☛ [ディスプレイと音] > [ディスプレイ] > [画像モード]
- 2** お使いのビデオ機器の設定を確認します。
- 3** [ディスプレイ] メニューで色に関する設定を調整します。  
☛ [ディスプレイと音] > [ディスプレイ]
- 4** [ディスプレイと音] メニューで [HDMI RGBレンジ] を設定します。(HDMIソースのみ)  
☛ [ディスプレイと音] > [ディスプレイ] > [詳細設定] > [HDMI RGBレンジ]
- 5** 必要なケーブルが本機とビデオ機器に確実に接続されていることを確認します。ケーブルが長いときは、短いケーブルで接続します。
- 6** 投写距離の推奨範囲内に設置します。

### ▶ 関連項目

- 「ディスプレイと音メニュー」 [p.69](#)

## 映像が上下反転して表示される

正しい設置モードを選択します。(EF-62/EF-61)

☛ [プロジェクター] > [詳細設定] > [設置モード]

### ▶ 関連項目

- 「プロジェクターメニュー」 [p.68](#)

## 自動形状補正で映像を補正できない

以下の場合に映像のピントや縦横のゆがみを自動的に補正できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 本機の電源をオンにしたとき
- 本機を動かしたり、傾けたりしたとき

- 1** 本機の状態を確認します。
  - 本機のカメラやセンサーの前に障害物があるときは、取り除いてください。
  - 本機のカメラやセンサーにホコリや汚れが付着しているときは、清掃してください。
  - 補正中に本機を動かさないでください。
  - [移動時] と [シャットダウンからの電源オン時] を [オン] に設定します。  
☛ [プロジェクター] > [台形補正] > [自動形状補正] > [移動時]  
☛ [プロジェクター] > [台形補正] > [自動形状補正] > [シャットダウンからの電源オン時]

- 2** 本機の設置環境を確認します。
- 「自動形状補正」で映像を補正できる条件は、以下のとおりです。
    - 投写映像のサイズ（対角線の長さ）が30～100インチのとき
    - 投写距離が約77～267 cmのとき
    - 投写面に対する本機の設置角度が上下左右20°以内のとき
  - 本機と投写面の間に障害物があるときは取り除いてください。
  - 明るい部屋で本機を使用しているときは、できるだけ暗くしてください。また、補正中に部屋の明るさを変えないでください。補正に失敗することがあります。
  - できるだけ無地で平らな投写面に映像を投写してください。投写面に模様や凹凸があると、補正に失敗することがあります。



本機のカメラやセンサーの故障により、映像のピントやゆがみを補正できないときは、警告画面が表示されます。お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

## ▶▶ 関連項目

- 「映像のゆがみとピントを自動的に補正する」 [p.44](#)

音声に関するトラブルの対処方法を確認してください。

## ▶ 関連項目

- 「音が出ない、小さすぎるなどのトラブル」 [p.89](#)
- 「Bluetoothスピーカーモードでのトラブル」 [p.89](#)

## 音が出ない、小さすぎるなどのトラブル

音が出ない、小さすぎるなどの問題があるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** リモコンの  上下ボタンを押して音量を調整します。
- 2** 本機とビデオ機器のケーブルが正しく接続されているか確認します。
- 3** ビデオ機器の音量が大きくなっているか、音声出力が正しく設定されているか確認します。
- 4** 本機のスピーカーから音声を出力するときは、[グローバルなCECコントロール] が [オフ] に設定されていることを確認します。  
☛ [チャンネルと入力] > [入力] > [グローバルなCECコントロール]
- 5** HDMIケーブルで、HDMI eARC/ARC対応のオーディオ機器に接続して音声を出力するときは、以下の設定を確認します。
  - ARC接続しているときは、メニューで [グローバルなCECコントロール] を [オン] にします。  
☛ [チャンネルと入力] > [入力] > [グローバルなCECコントロール]

- お使いのHDMIケーブルが、HDMI eARC/ARCに対応しているか確認します。



- HDMI eARC/ARC非対応のオーディオ機器に音声を出力するときは、メニューで [グローバルなCECコントロール] を [オフ] に設定します。  
☛ [チャンネルと入力] > [入力] > [グローバルなCECコントロール]
- eARC/ARCの対応音声形式について詳しくは、『Supplemental A/V Support Specification』をご覧ください。

- 6** HDMI eARC/ARC対応のオーディオ機器に音声が出力されないときは、[デジタル出力] の設定を [自動] から [PCM] に変更してみてください。  
☛ [ディスプレイと音] > [オーディオ出力] > [デジタル出力]

## ▶ 関連項目

- 「チャンネルと入力メニュー」 [p.67](#)
- 「ディスプレイと音メニュー」 [p.69](#)

## Bluetoothスピーカーモードでのトラブル

Bluetoothオーディオ機器を本機に接続できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** [プロジェクター] メニューで [Bluetoothスピーカーモード] を選択して、リモコンの【決定】ボタンを押します。

- 2** Bluetooth機器に表示される接続可能機器の一覧から、プロジェクター一名（本機）を選択します。



[デバイス名]メニューでプロジェクターの名前を確認、変更できます。

☞ [システム] > [デバイス情報] > [デバイス名]

- 3** Bluetooth機器の音量が大きくなっているか、音声出力が正しく設定されているか確認します。

- 4** 他のBluetooth機器が接続されていないことを確認します。  
複数のBluetooth機器を同時に接続することはできません。

- 5** Bluetooth機器が本機のBluetooth仕様に適合しているか確認します。

- 6** 次の点を確認します。

- Bluetoothオーディオ機器と本機の間には障害物がないかを確認し、電波状況がよくなるようにそれらの位置を変更します。
- Bluetoothオーディオ機器が離れすぎているか確認します。
- 電子レンジ、2.4GHz帯の周波数を使用するコードレス電話や無線機器などの近くで本機を使用しないでください。電波干渉が発生することがあります。

## ▶▶ 関連項目

- 「プロジェクターをBluetooth®スピーカーとして使用する」 [p.59](#)
- 「Bluetooth仕様」 [p.102](#)

本機がリモコン操作に反応しない、または反応が遅いときは、次の対処方法を確認してください。



リモコンを紛失した場合は、新たにリモコンをお買い求めいただけます。お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

- 1** リモコンの電池が正しくセットされていること、電池が切れていないことを確認します。必要に応じて、電池を交換します。
- 2** リモコンのボタンが押し込まれた状態になっていて、操作できない可能性があります。ボタンを元の状態に戻してください。
- 3** ペアリング画面が表示される場合は、リモコンの  ボタンと  ボタンを同時に約3秒間押して、再ペアリングしてください。
- 4** [リモコンとアクセサリ] メニューでペアリング画面を表示して、再ペアリングしてください。
- 5** リモコン信号が届く距離、角度からリモコンを操作します。
- 6** 蛍光灯の強い光、直射日光、赤外線機器の信号が、本機のリモコン受光部に干渉することがあります。照明の明るさを落とす、または直射日光や赤外線干渉を避けられる場所に本機を移動してください。
- 7** リモコンが故障している可能性があります。お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

## ▶ 関連項目

- 「リモコンを操作する」 [p.29](#)
- 「リモコンに電池を取り付ける」 [p.29](#)
- 「インジケータの見方」 [p.81](#)

HDMI CECで接続機器を操作できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** お使いのケーブルがHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。
- 2** 接続機器がHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- 3** [入力] メニューで [グローバルなCECコントロール] を [オン] にします。  
☛ [チャンネルと入力] > [入力] > [グローバルなCECコントロール]
- 4** 必要なケーブルが本機とビデオ機器に確実に接続されていることを確認します。
- 5** 接続機器の電源がスタンバイ状態になっているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- 6** 新しく機器を接続したり、接続を変更した後に操作できないときは、接続機器のCEC機能を設定し直して、再起動します。

## ▶ 関連項目

- 「チャンネルと入力メニュー」 [p.67](#)
- 「インジケータの見方」 [p.81](#)

Wi-Fiネットワークに接続できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** お使いのWi-Fiルーターやモデムが正しく動作していることを確認します。再起動すると問題が解決することがあります。
- 2** Wi-Fiルーターと本機の間には障害物がないかを確認し、電波状況がよくなるようにそれらの位置を変更します。
- 3** [ネットワークとインターネット] メニューの [Wi-Fi] で、ネットワークの設定を確認できます。
- 4** 本機を初期化したときは、初期設定でネットワークを設定しなおす必要があります。

## ▶ 関連項目

- 「プロジェクターを初期化する」 [p.64](#)

オンラインコンテンツの視聴に関するトラブルは、以下のサイトを参照してください。

<https://support.google.com/googletv/>

# 付録

お使いの製品の仕様や使用上の注意事項については、以下の項目をご確認ください。

## ▶▶ 関連項目

- 「オプション」 [p.96](#)
- 「スクリーンサイズと投写距離」 [p.97](#)
- 「対応解像度」 [p.99](#)
- 「本機仕様」 [p.100](#)
- 「外形寸法図」 [p.104](#)
- 「安全規格対応シンボルマークと説明」 [p.106](#)
- 「警告ラベル」 [p.108](#)
- 「用語解説」 [p.109](#)
- 「一般のご注意」 [p.110](#)

下記のオプション品を用意しています。用途に合わせてお買い求めください。

これらのオプション品は2025年7月現在のものです。

予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

## ▶ 関連項目

- 「設置用金具」 [p.96](#)

---

## 設置用金具

### フロアスタンド **ELPFS01**

本機を床に置いて使用するときに使います。

### セーフティーワイヤーセット **ELPWR01**

落下防止のため、本機と本機の設置場所をつなぐときに使います。



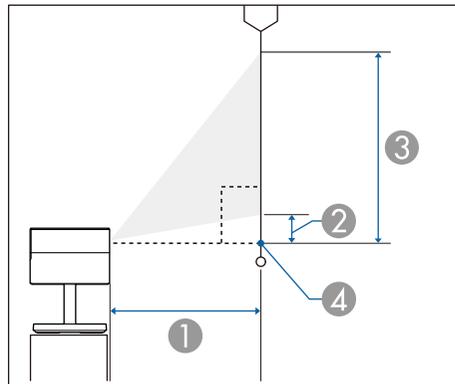
天吊り設置には特別な技術が必要です。

## ▶ 関連項目

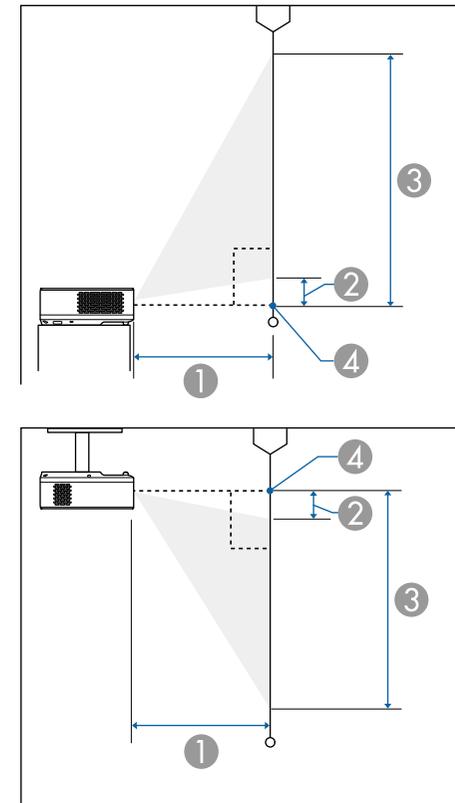
- 「プロジェクターを三脚やプロジェクタースタンドに取り付ける（床置き・天吊り）（EF-62/EF-61）」 [p.22](#)
- 「セーフティーワイヤーを取り付ける（EF-72/EF-71）」 [p.24](#)

この表に従って、スクリーンからプロジェクターまでの距離を、投写映像の大きさに応じて決めます。

## EF-72/EF-71 (スタンド付きモデル)



## EF-62/EF-61



- ① 投写距離 (cm)
- ② 本機からスクリーン下端までの長さ (cm)
- ③ 本機からスクリーン上端までの長さ (cm)
- ④ レンズの中心

16:9スクリーンサイズ		①	②	③
		最短 (ワイド)	最短 (ワイド)	最短 (ワイド)
30型	66 × 37	77	-4	33
40型	89 × 50	104	-6	44

16:9スクリーンサイズ		①	②	③
		最短 (ワイド)	最短 (ワイド)	最短 (ワイド)
50型	111×62	132	-7	55
60型	133×75	159	-9	66
70型	155×87	186	-10	77
80型	177×100	213	-12	88
90型	199×112	240	-13	99
100型	221×125	267	-15	110
120型	266×149	321	-18	132
150型	332×187	402	-22	165

4:3スクリーンサイズ		①	②	③
		最短 (ワイド)	最短 (ワイド)	最短 (ワイド)
27型	55×41	86	-5	36
30型	61×46	96	-5	40
40型	81×61	129	-7	54
50型	102×76	162	-9	67
60型	122×91	195	-11	81
70型	142×107	228	-13	94
80型	163×122	261	-15	107
90型	183×137	294	-16	121
100型	203×152	327	-18	134
120型	244×183	394	-22	161
122型	248×186	400	-22	164

16:10スクリーンサイズ		①	②	③
		最短 (ワイド)	最短 (ワイド)	最短 (ワイド)
28型	60×38	78	-4	33
40型	86×54	113	-6	47
50型	108×67	143	-8	59
60型	129×81	172	-10	71
70型	151×94	201	-11	83
80型	172×108	230	-13	95
90型	194×121	260	-14	107
100型	215×135	289	-16	119
110型	237×148	318	-18	130
120型	258×162	347	-19	142
138型	297×186	400	-22	164

映像信号ごとのリフレッシュレートと解像度についての詳細は『Supplemental A/V Support Specification』をご覧ください。

## EF-72/EF-71

商品名	EF-72/EF-71
外形サイズ	幅190×高さ248×奥行き190 mm (フットを含まず)
液晶パネルサイズ	0.62型
表示方式	3LCD
有効画素数	Full HD (横1,920×縦1,080ドット) ×3
スクリーン解像度	<b>EF-72</b> 4,147,200ピクセル* <b>EF-71</b> 2,073,600ピクセル
フォーカス調整	電動
ズーム調整	1.0~3.33 (デジタル)
光源	LED
光源出力	<b>EF-72</b> 最大19 W <b>EF-71</b> 最大14 W
波長	なし
光源寿命**	最大約20,000時間
音声最大出力	5 W × 2
スピーカー	2個 (ステレオ、パッシブラジエーター)
電源	24.0 V DC 6.0 A
動作時消費電力 (100-120Vエリア)	光源の明るさが100%のとき：137 W 光源の明るさが50%のとき：87 W

動作時消費電力 (220-240Vエリア)	光源の明るさが100%のとき：135 W 光源の明るさが50%のとき：82 W
待機時消費電力	通信オン：2.0 W 通信オフ：0.5 W
動作高度	標高 0~3,048 m
動作温度範囲***	標高0~2,286 m：+5~+35°C (湿度20~80%、結露しないこと) 標高2,287~3,048 m：+5~+30°C (湿度20~80%、結露しないこと)
保存温度範囲	-10~+60°C (湿度10~90%、結露しないこと)
質量	約4.0kg

\* ピクセルシフト技術により、4K相当の解像度を実現しています。

\*\* 光源の明るさが半減するまでの目安時間です。(大気中に含まれる粒子物質が0.04~0.2mg/m<sup>3</sup>の環境下での使用を想定しています。使用条件や使用環境によって目安時間は変動します。)

\*\*\* 使用する環境の温度が高くなったときは、光源の明るさを自動的に落とします。

定格ラベルは本機の底面に貼り付けられています。

## EF-62/EF-61

商品名	EF-62N/EF-62B/EF-61W/EF-61G
外形サイズ	幅199×高さ68×奥行き190 mm (フットを含まず)
液晶パネルサイズ	0.62型
表示方式	3LCD
有効画素数	Full HD (横1,920×縦1,080ドット) ×3

スクリーン解像度	<b>EF-62</b> 4,147,200ピクセル* <b>EF-61</b> 2,073,600ピクセル
フォーカス調整	電動
ズーム調整	1.0~3.33 (デジタル)
光源	LED
光源出力	最大14 W
波長	なし
光源寿命**	最大約20,000時間
音声最大出力	5 W + 2 W
スピーカー	2個 (ステレオ、パッシブラジエーター)
電源	24.0 V DC 6.0 A
動作時消費電力 (100-120Vエリア)	光源の明るさが100%のとき：101 W 光源の明るさが50%のとき：57 W
動作時消費電力 (220-240Vエリア)	光源の明るさが100%のとき：95 W 光源の明るさが50%のとき：56 W
待機時消費電力	通信オン：2.0 W 通信オフ：0.5 W
動作高度	標高 0~3,048 m
動作温度範囲***	標高0~2,286 m：+5~+35°C (湿度20~80%、結露しないこと) 標高2,287~3,048 m：+5~+30°C (湿度20~80%、結露しないこと)
保存温度範囲	-10~+60°C (湿度10~90%、結露しないこと)
質量	約1.6kg

\* ピクセルシフト技術により、4K相当の解像度を実現しています。

\*\* 光源の明るさが半減するまでの目安時間です。(大気中に含まれる粒子物質が0.04~0.2mg/m<sup>3</sup>の環境下での使用を想定しています。使用条件や使用環境によって目安時間は変動します。)

\*\*\* 使用する環境の温度が高くなったときは、光源の明るさを自動的に落とします。

定格ラベルは本機の底面に貼り付けられています。

## ▶▶ 関連項目

- 「ACアダプター」 [p.101](#)
- 「接続端子」 [p.101](#)
- 「Bluetooth仕様」 [p.102](#)

## ACアダプター

メーカー	EPSON
型番	E210-1B2400750M3
ACアダプターへの入力電源	100-240V AC±10% 50/60Hz 3.0A
出力	24.0V DC 7.5A 180.0W

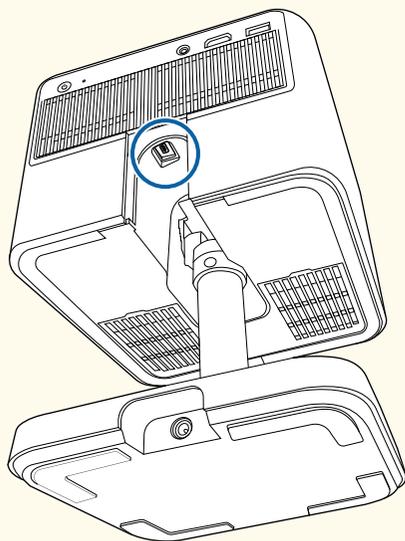
## 接続端子

Audio Out端子	1系統	ステレオミニピンジャック (3極)
HDMI端子	1系統	HDMI (Aタイプ)
USB-A端子	1系統	USBコネクタ (Aタイプ)
Service端子	1系統	USBコネクタ (Mini-B)
USB-C端子 (EF-72)	1系統	USBコネクタ (Cタイプ)

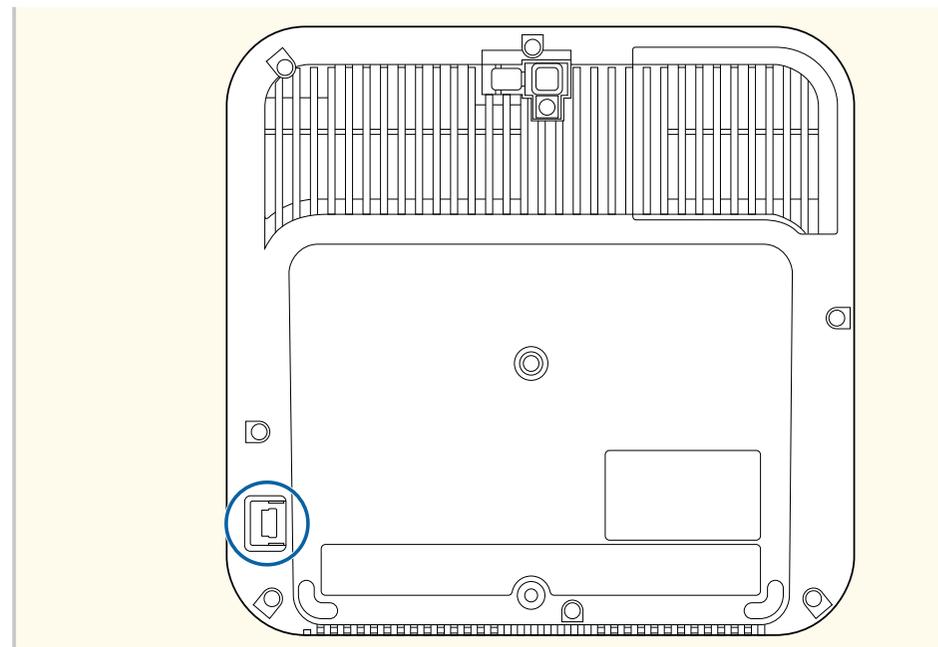


- USB端子はUSB対応機器すべての動作を保証するものではありません。
- Service端子は通常は使用しません。
- Service端子の位置については下図を参照してください。  
Service端子にはキャップが付いています。取り外さないでください。

**EF-72/EF-71 (スタンド付きモデル)**



**EF-62/EF-61**



## Bluetooth仕様

バージョン	Bluetooth Ver. 5.2
出力	Class 2
通信可能距離	約10m
対応プロファイル	A2DP、AVRCP、HID
使用周波数	2.4 GHz帯 (2.402 - 2.480 GHz)
対応コーデック	SBC

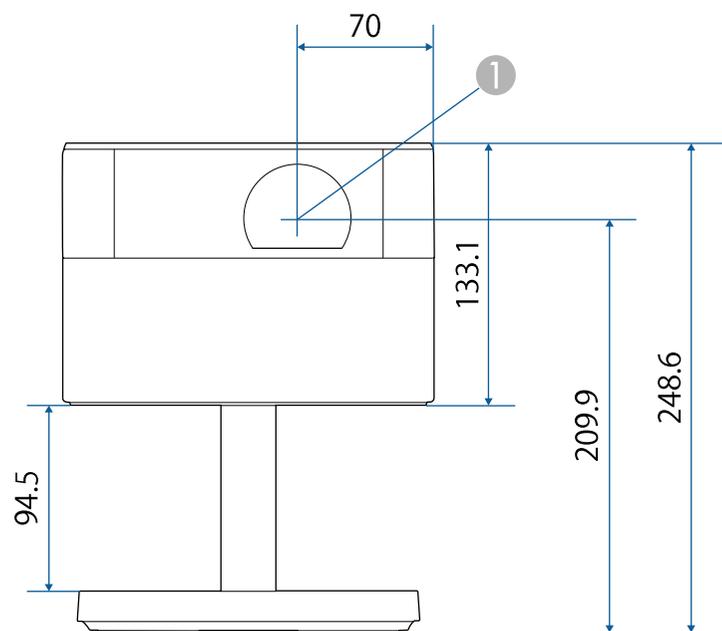
### 警告

医療機器、自動ドアや火災報知機などの自動制御機器の近くで使用しないでください。電磁妨害による誤動作や事故の原因となります。

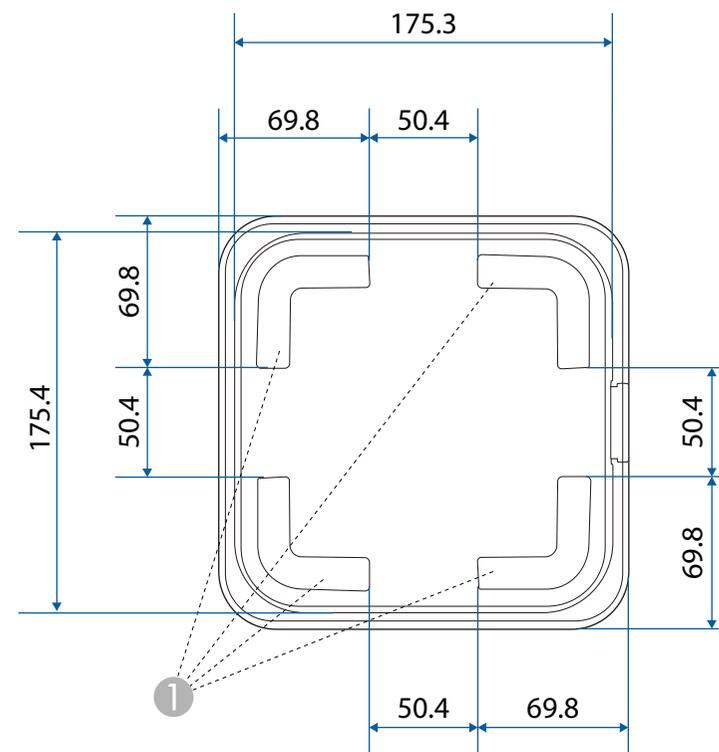


- 機器の規格や種類によっては接続できないことがあります。
- 通信可能距離内で接続しているときでも、電波状況によっては接続が切れることがあります。
- Bluetoothの通信方式は無線LAN (IEEE802.11b/g/n/ax) や電子レンジと同一の周波数帯 (2.4 GHz) を使用しています。そのため、同時に使用すると電波干渉が発生し、映像や音声途切れたり接続できないことがあります。同時に使用したいときは、Bluetooth機器をこれらの機器の近くで使用しないでください。

EF-72/EF-71

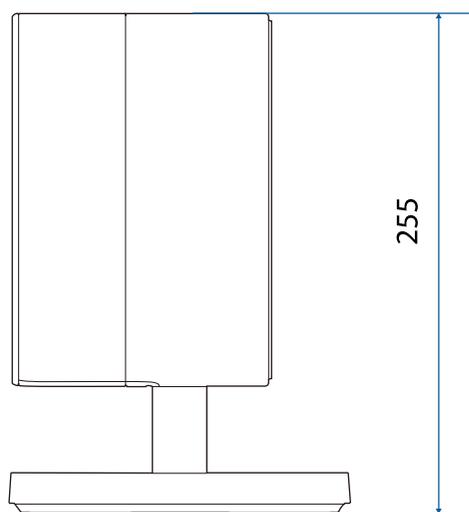


① レンズの中心



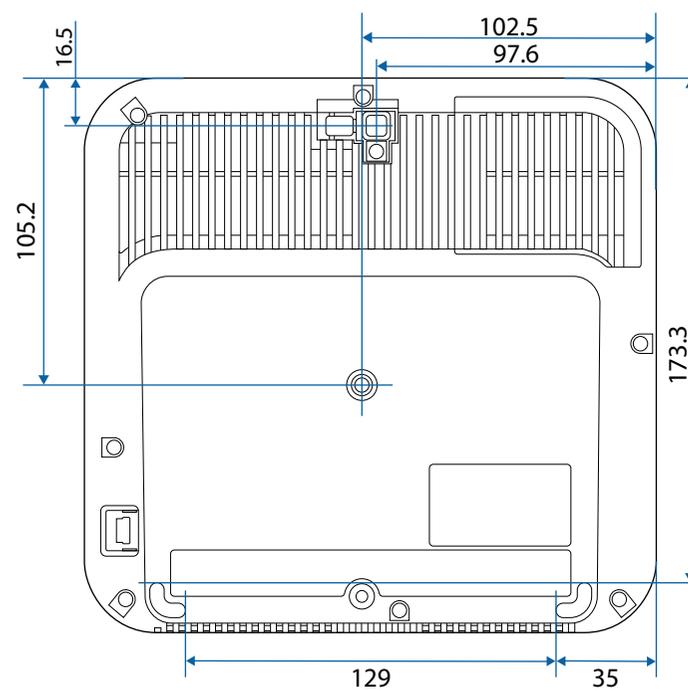
① スタンド脚部

90°上に向けて天井に投写するとき

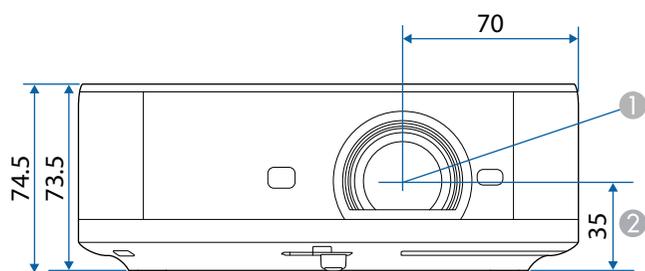


単位：mm

EF-62/EF-61



単位：mm

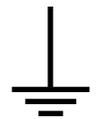


① レンズの中心

② レンズの中心から三脚固定部までの寸法

製品上にシンボルマークが表示されている場合は、それぞれ以下の意味を持っています。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
①		IEC60417 No. 5007	電源ON 電源への接続を示す。
②		IEC60417 No. 5008	電源OFF 電源からの切り離しを示す。
③		IEC60417 No. 5009	スタンバイ 機器・装置の一部だけを通電状態にし、機器・装置を待機状態にするためのスイッチまたはその位置を示す。
④		ISO7000 No. 0434B, IEC3864-B3.1	注意 製品取扱時の全般的な注意を示す。
⑤		IEC60417 No. 5041	注意（高温） 高温の可能性があり、不注意に触れない方がよい箇所であることを示す。
⑥		IEC60417 No. 6042 ISO3864-B3.6	注意（感電危険） 感電（電撃）の危険性がある機器・装置であることを示す。
⑦		IEC60417 No. 5957	屋内専用 屋内使用専用を目的とする電気機器・装置であることを表す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
⑧		IEC60417 No. 5926	直流電源コネクタ極性 直流電源を接続してもよい機器のプラスおよびマイナス電極の接続を示す。
⑨		—	No. 8と同じ
⑩		IEC60417 No. 5001B	電池（一般） 電池を電源とする機器・装置に使用する。電池装着部分のカバーまたは接続端子を示す。
⑪		IEC60417 No. 5002	電池の向き 電池ケース本体および電池ケース内での向きを示す。
⑫		—	No. 11と同じ
⑬		IEC60417 No. 5019	保護接地 障害発生時の電撃（感電）保護用外部導体への接続端子または保護接地極の端子であることを示す。
⑭		IEC60417 No. 5017	アース No. 13の使用が明示的に要請されない場合の接地（アース）端子であることを示す。
⑮		IEC60417 No. 5032	交流 交流専用の機器・装置であり、交流に対応する端子であることを示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
16		IEC60417 No. 5031	直流 直流専用の機器・装置であり、直流に対応する端子であることを示す。
17		IEC60417 No. 5172	クラスII機器 JIS C 9335-1/JIS C 8105-1でクラスII機器と規定した安全性要求事項に適合する機器・装置であることを示す。
18		ISO 3864	一般的な禁止 特定しない一般的な禁止通告を示す。
19		ISO 3864	接触禁止 機器の特定の場所に触れることによって傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。
20		—	プロジェクター動作中の投写レンズ覗きこみ禁止を示す。
21		—	プロジェクターの上に物を置いたはならないことを示す。
22		ISO3864 IEC60825-1	注意（レーザー放射） 製品上に注意が必要なレベルのレーザー放射部があることを示す。
23		ISO 3864	分解禁止 機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。

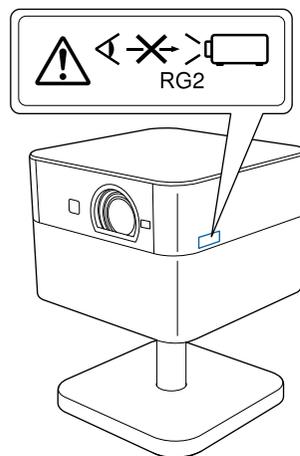
No.	シンボルマーク	対応規格	説明
24		IEC60417 No. 5266	待機、一部待機 機器・装置の一部が準備状態であることを示す。
25		ISO3864 IEC60417 No. 5057	注意（可動部品） 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。
26		IEC60417 No. 6056	注意（可動ファンのブレード） 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。
27		IEC60417 No. 6043	注意（鋭利な角） 保護規定上、鋭利な角には触れてはいけないことを指示する。
28		—	プロジェクター動作中の投写レンズ覗きこみ禁止。
29		ISO7010 No. W027 ISO 3864	警告、光放射（UV、可視光、IRなど） 光放射の近くにいるときは、目や肌に負傷を与えないように注意してください。
30		IEC60417 No. 5109	居住区域使用禁止 居住区域での使用に適さない電気機器・装置であることを示す。

本機には以下の警告ラベルが貼られています。

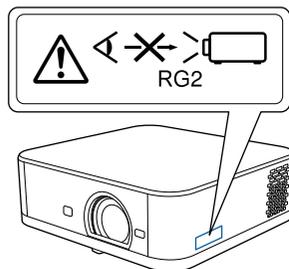
## ⚠ 警告

投写中は、光源から放射される光をのぞかないでください。(RG2 IEC/EN 62471-5:2015に準拠)

EF-72/EF-71



EF-62/EF-61



## ⚠ 警告

- 投写中は本機のレンズをのぞき込まないでください。目に損傷を与えるおそれがあります。特にお子様やペットの行動にご注意ください。
- 本機から離れた場所でリモコンを使って電源を入れるときは、レンズをのぞいている人がいないことを確認してください。
- 小さなお子様には操作させないでください。操作する可能性がある場合は、必ず保護者が同伴してください。
- 投写中はレンズをのぞきこまないでください。また、ルーペや望遠鏡などの光学機器を用いてレンズをのぞかないでください。視覚障害の原因になることがあります。
- 本機に異常が発生したときは、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。そのまま使用を続けると、感電や火災の原因だけでなく、視力障害の原因にもなります。

本書で使用している用語で、本文中に説明がないものや難しいものを簡単に説明します。詳細は市販の書籍などでご確認ください。

アスペクト比	画面の横と縦の比率をいいます。 横：縦の比率が16:9の、HDTVなどの画面をワイド画面といっています。 SDTVや、一般的なコンピューターのディスプレイのアスペクト比は4:3です。
コントラスト	色の明暗の差を強くしたり弱くしたりすることにより、文字や絵がはっきり見えたり、ソフトに見えたりすることです。この調整をコントラストの調整といっています。
4K	画面サイズの規格で、横3,840ドット×縦2,160ドットのことを呼びます。
Full HD	画面サイズの規格で、横1,920ドット×縦1,080ドットのことを呼びます。
HDCP	High-bandwidth Digital Content Protectionの略です。 DVIやHDMI端子を経由して送受信するデジタル信号を暗号化し、不正なコピーを防止する著作権保護技術です。 本機のHDMI端子はHDCPに対応しているため、HDCP技術で保護されたデジタル映像を投写できます。 ただし、HDCPの規格変更等が行われたときは、変更後の規格で保護されたデジタル映像を投写できなくなる場合があります。
HDMI™	High Definition Multimedia Interfaceの略で、デジタル家電やコンピューター向けの規格です。HD映像とマルチチャンネルオーディオ信号をデジタル伝送できます。 デジタル信号を圧縮せず高品質のまま転送できます。デジタル信号の暗号化機能もあります。

HDTV	High-Definition Televisionの略で、次の条件を満たす高精細なシステムに適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>垂直解像度720p、1080i以上（pはプログレッシブ走査、iはインターレース走査）</li> <li>画面のアスペクト比は16:9</li> </ul>
ペアリング	Bluetooth機器で接続するとき、相互に通信できるよう、あらかじめ機器を登録することです。
リフレッシュレート	ディスプレイの発光体は、その明るさと色をごく短時間保持します。 そのため発光体をリフレッシュするために1秒間に何度も画像を走査しなければなりません。 その速度をリフレッシュレートと呼び、ヘルツ（Hz）で表します。
SDTV	Standard Definition Televisionの略で、HDTVの条件を満たさない標準テレビ放送のことです。

本機をお使いの際の注意事項については、以下の項目をご確認ください。

## ▶ 関連項目

- 「使用限定について」 [p.110](#)
- 「本機を日本国外へ持ち出す場合の注意」 [p.110](#)
- 「瞬低（瞬時電圧低下）基準について」 [p.110](#)
- 「JIS C 61000-3-2適合品」 [p.110](#)
- 「商標について」 [p.110](#)
- 「ご注意」 [p.111](#)
- 「著作権について」 [p.111](#)

## 使用限定について

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で当社製品をご使用いただくようお願いいたします。本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、医療機器など、極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途には本製品の適合性をお客様において十分ご確認ください。

## 本機を日本国外へ持ち出す場合の注意

- 日本国内向けの本製品を海外で利用した場合は、保証の対象外となります。国内で販売する本製品は、日本国内使用を意図した安全規格基準のみ対応しているため、日本国以外でのご使用は違法となる場合があります。また、国や地域によっては電波使用制限があるため、ネットワーク機能を海外で使った場合、罰せられることがあります。

- 電源コードは日本国内向けの電源仕様に基づき同梱されています。本機を日本国以外でお使いになるときは、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国の規格に適合した電源コードを現地にしてお求めください。

## 瞬低（瞬時電圧低下）基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

## JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

## 電波障害自主規制について

この装置は、一般財団法人VCCI協会の基準に基づくクラスB情報技術機器です。

## 商標について

Mac、OS X、macOSは、Apple Inc.の商標です。

Microsoft、Windows、Windows ロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Google TVは、本デバイスのソフトウェア機能の名称であり、Google LLCの商標です。Google、YouTube、Google CastはGoogle LLCの商標です。

Netflixは、Netflix, Inc.の登録商標です。 **NETFLIX**

ドルビーラボラトリーズの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Dolby Audio及びダブルD記号はDolby Laboratories Licensing Corporationの登録商標です。

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。 

Wi-Fi®はWi-Fi Alliance®の商標です。

Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、セイコーエプソン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標および商品名は、それぞれの所有者に帰属します。

Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびにその他の国における商標または登録商標です。

USB Type-C®はUSB Implementers Forumの登録商標です。

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

せ先」参照)以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。

(6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品、交換部品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

(7) 本書中のイラストや画面図は実際と異なる場合があります。

---

## 著作権について

本書の内容は予告なく変更することがあります。

© 2025 Seiko Epson Corporation

2025.07 414607100JA

---

## ご注意

(1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。

(2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、お気づきの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。

(4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

(5) 本製品がお客様により不適當に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者(「お問い合わせ